

真鶴

データブック

2023

～ RESASで見た町のいま～

2024年4月

真鶴町

はじめに

真鶴町は今、どのような状況なのか？ それを知るためには、町を歩いて観察することも大事ですし、客観的なデータから把握することも大切です。今回、データという根拠に基づいて真鶴町の現状を可視化したいと考え、この「真鶴データブック 2023 ～RESAS で見た町のいま～」を制作しました。

本冊子が、町内外のみなさまにとって真鶴町に対する理解や関心を深めるきっかけとなることを期待しています。真鶴町をめぐる議論の土台となって、町政運営における気付きや公民連携につながれば幸いです。

●RESASとは

RESASは『Regional Economy and Society Analyzing System (地域経済分析システム)』の略称で、内閣官房と経済産業省が Web 上で提供するシステムです。

●制作方法

外部のコンサルティング会社に高い費用を払って頼めば、綺麗で立派な冊子が出来上がるのですが、職員が自ら手を動かすことで得られる知見もあるはずです。今回は RESAS の使い方について政策推進課の職員 2 名が外部の研修を 2 月に受講し、約 1 か月で制作しました。かかった費用は 3 万円×2 名=6 万円だけで、あとは通常の職員人件費です。ただし、分析の内容については、それぞれの所管部署にチェックをしてもらう形をとり、真鶴町全体で制作しました。

●留意点

データの出典については、全て RESAS と同一となっています。ただし、グラフについては RESAS 上から抜き出した数値を基に真鶴町にて作成したグラフも含まれています。それらについては、別途出典と作成者(真鶴町)を示しました。

本統計データを見て述べていることは、あくまでも「仮説」であり、因果関係ではありません。通常、因果関係を立証するには丁寧な検証が必要になります。従って、各ページに示された分析は 1 つの仮説として、あくまでも一担当者の私見としてご理解ください。

本内容につきまして、ご感想等ありましたらお寄せください。

よろしくお願い申し上げます。

目次

はじめに

【人口】	4
人口推移.....	4
人口ピラミッド.....	5
自然増減・社会増減	6
年齢階級別純移動数の時系列推移	7
真鶴町の男女別人口増減.....	8
転入数・転出数の上位地域 2019-2022年.....	9
流入者数・流出者数の上位地域	10
【経済規模】	11
生産額（総額-地域別）2018年 全国の分布	11
生産額（総額-地域別）2018年 神奈川県内の分布.....	11
付加価値額（総額-地域別）2018年 全国の分布.....	12
付加価値額（総額-地域別）2018年 神奈川県内の分布.....	12
【地域経済循環】	13
地域経済循環図.....	13
生産（付加価値額）	14
地域内産業の構成割合（付加価値額総額）2018年.....	14
分配（所得）	15
雇用者所得（一人当たり）2018年 神奈川県内の分布	15
支出.....	16
民間消費額（総額）の推移	17
地域経済循環 8年前との比較.....	18
【全産業】	19
企業数、事業所数、従業員数.....	19
産業大分類別に見た売上高（企業単位）の構成比 2016年	20
産業大分類別に見た従業者数（事業所単位）と事業所数.....	21
産業大分類別に見た付加価値額（企業単位）2016年.....	22
付加価値額（総額）2018年 中分類.....	23
第2次産業の産業大分類別に見た構成比（付加価値額総額）	24
第3次産業の産業大分類別に見た構成比（付加価値額総額）	25

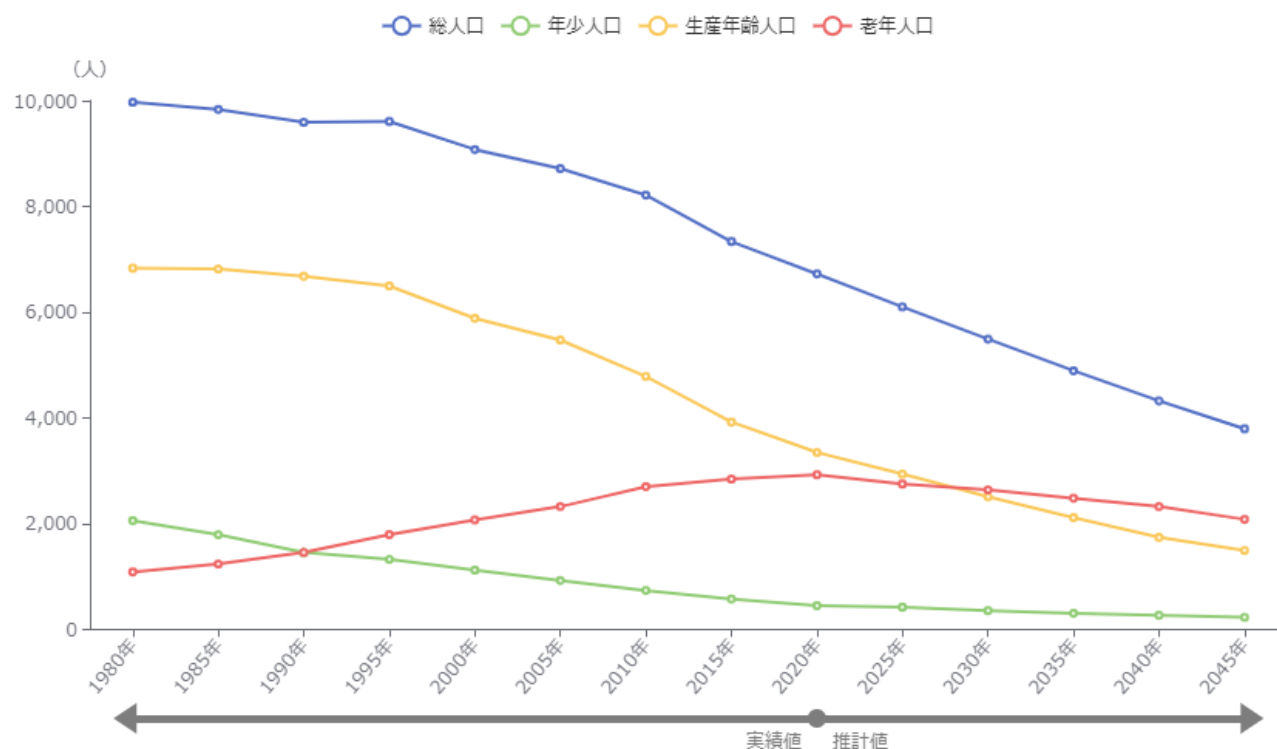
【小売業】	26
小売業の事業所数・従業者数・年間商品販売額の推移.....	26
小売業の種類（産業別小売業）別の事業所数の推移	27
小売業の種類（産業中分類）別の従業者数・事業所数.....	27
【農業】	28
品目別農業算出額 2020年.....	28
農業産出額の推移.....	28
経営体あたり農業産出額（地域間比較）2015～2020年.....	29
年齢階級別農業就業者比率と平均年齢	30
農産物の出荷先別経営体数割合の推移	31
【水産業】	32
漁獲物等販売金額・漁業経営体数の推移	32
漁船隻数の推移.....	33
経営体あたり漁獲物等販売金額（地域間比較）	34
【観光】	35
延べ宿泊者数（総数）の推移 宿泊日数別.....	35
延べ宿泊者数（総数）の推移 参加形態別.....	35
居住都道府県別の延べ宿泊者数（日本人）の構成割合 2021年	36
居住都道府県別の延べ宿泊者数（日本人）の推移.....	37
県外の滞在人口の地域別構成割合 2023年6月.....	38
【医療・福祉】	39
要介護（要支援）認定者数（実数）の推移.....	39
人口10万人あたり医師数・一般病床数（地域間比較）2020年度.....	40
まとめ	41

【人口】

人口推移

人口推移グラフ

神奈川県真鶴町



【出典】
総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

【分析】
真鶴町の総人口は、2045年には4,000人を下回る見込みです。既に65歳以上の老年人口も減り始めました。しかし、減少数が大きいのは何といても15歳以上65歳未満の生産年齢人口です。減少を緩やかにするための対策が必要です。

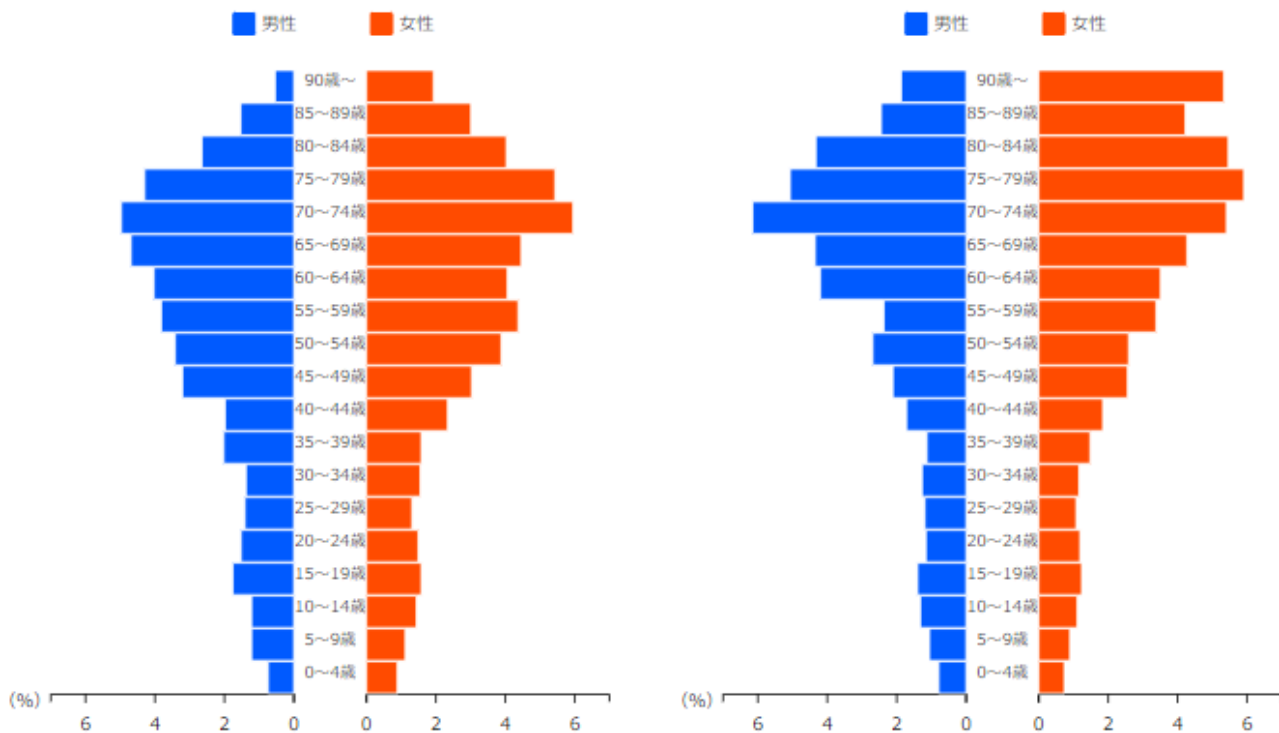
人口ピラミッド

人口ピラミッド

神奈川県真鶴町

2020年

2045年



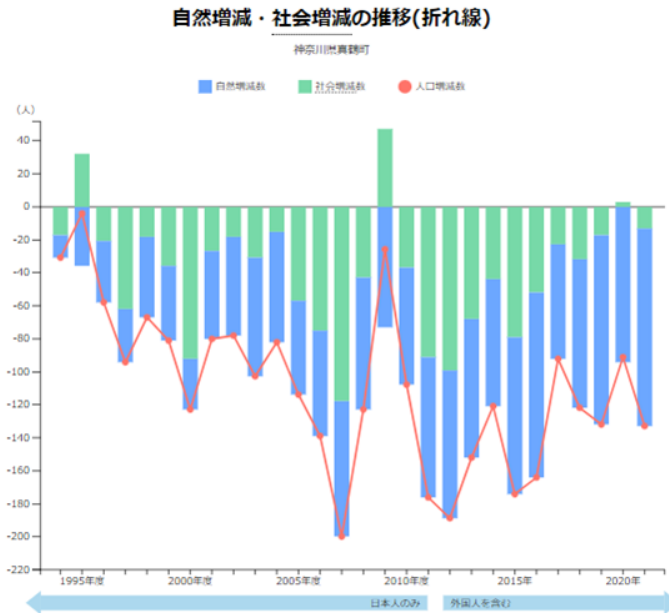
【出典】
総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

【分析】

逆ピラミッド型（逆富士山型）とでもいべき変形つぼ型（紡錘型）となっています。少子高齢化の典型的な姿といえるでしょう。

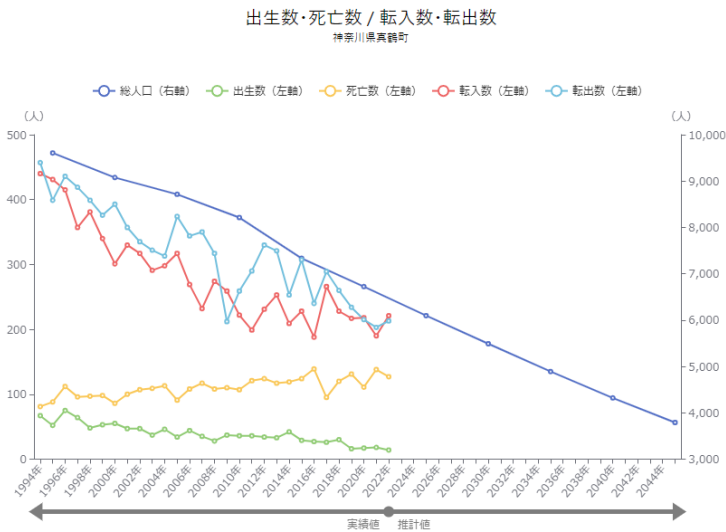
女性の平均寿命のほうが長いため、今後は女性の後期高齢者が増える予測です。

自然増減・社会増減



【出典】
 総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」再編加工

【分析】
 2015年あたりから社会減の幅が小さくなっています。2020年には出ていく人（転出）より入ってくる人（転入）の方が多かったほどです。出生数－死亡数である自然減は続くでしょうから、社会増を目指す努力を進めていきたいところです。



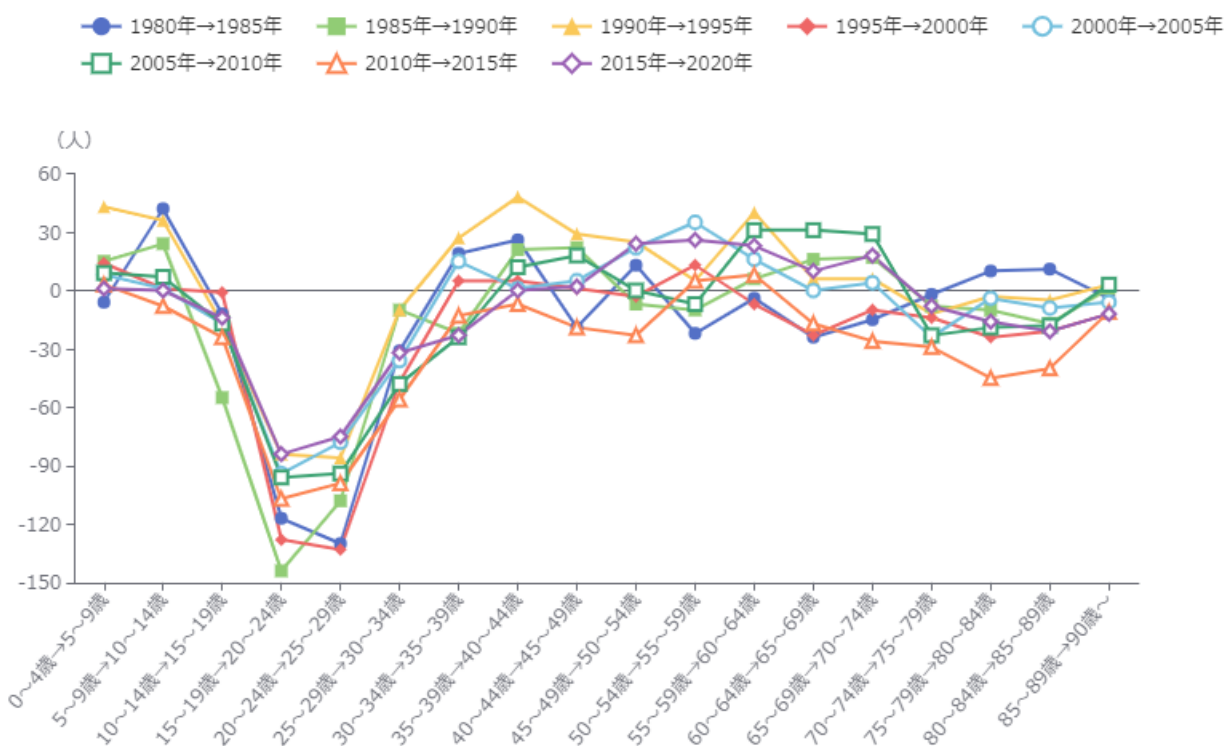
【出典】
 総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」、
 総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」

【分析】
 転入・転出が年を追うごとに減少して、人の出入りが少なくなっていることが分かります。今後は、転入をいかに増やすかが重要になってきます。

年齢階級別純移動数の時系列推移

年齢階級別純移動数の時系列分析

神奈川県真鶴町



【出典】

総務省「国勢調査」、厚生労働省「都道府県別生命表」に基づきまち・ひと・しごと創生本部作成

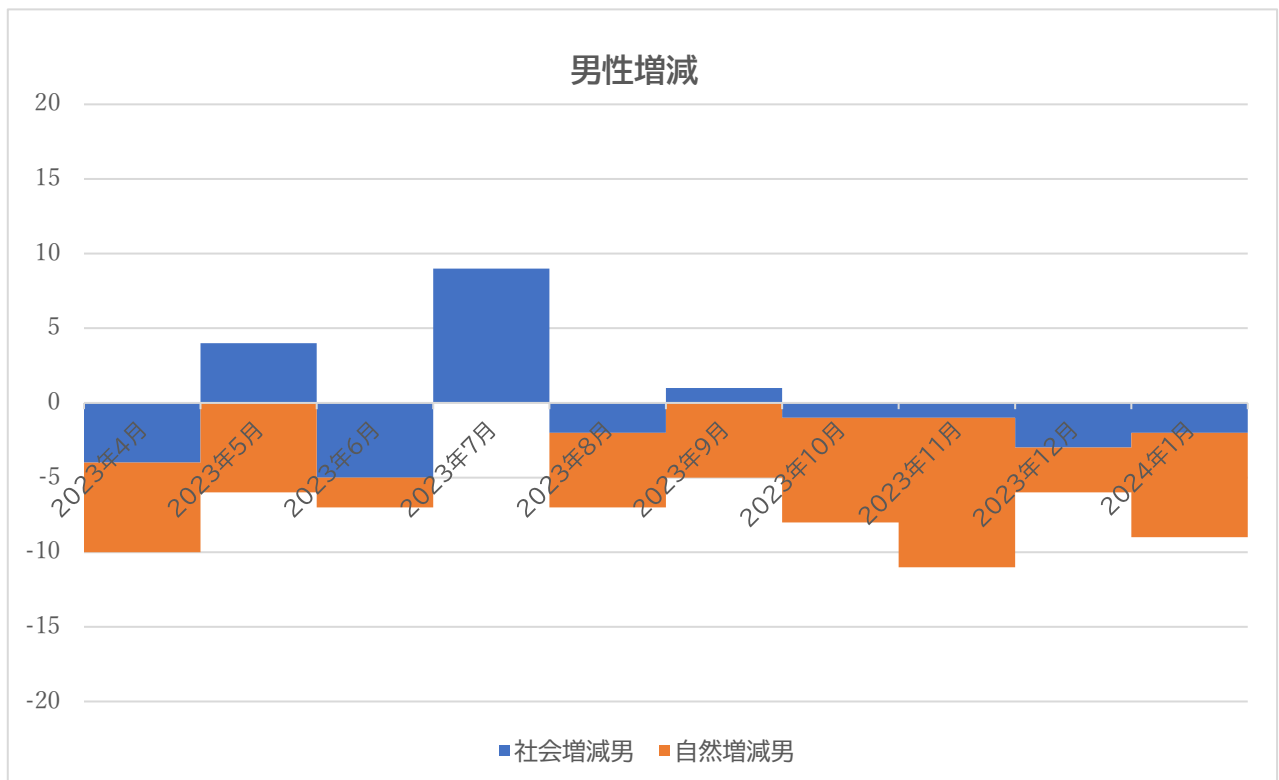
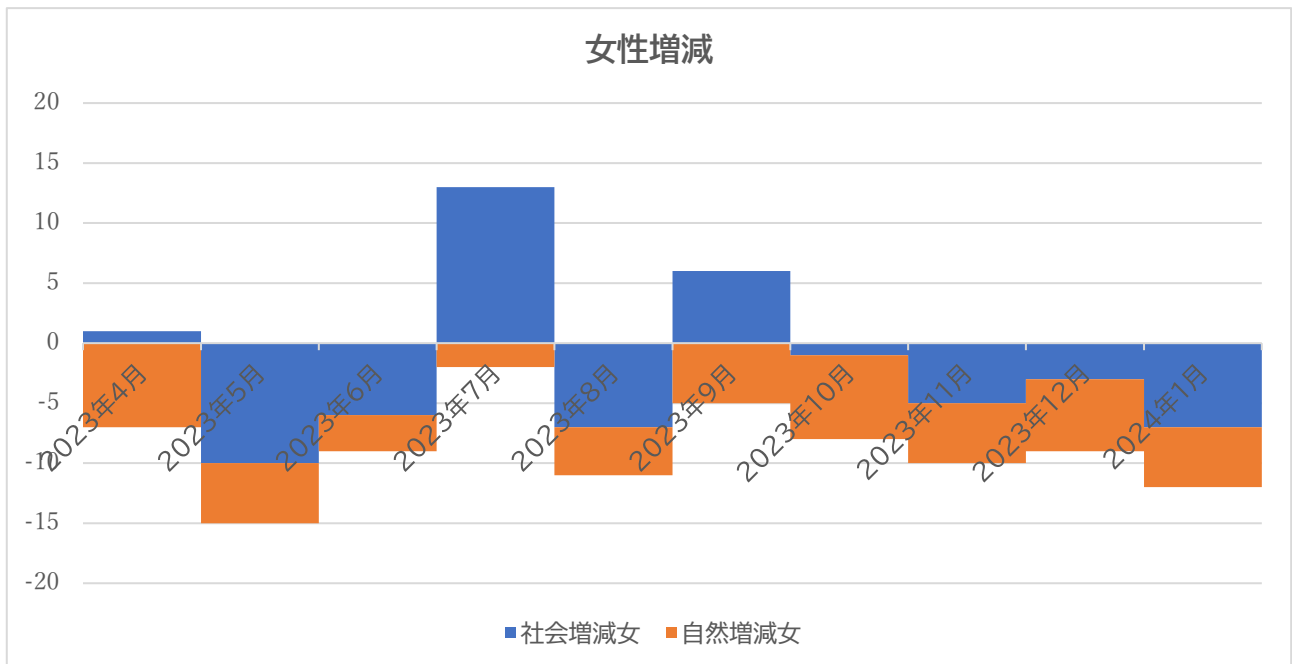
【分析】

純移動数＝転入数－転出数。

1980→1985年を見ると、1980年に15～24歳だった人々は大幅な転出超過になっているものの、30～39歳だった人々は転入超過になっていることがわかります。当時は、20代のときに進学・就職で町外に出た人が、30代でUターンをしていたのかも知れません（このグラフからは同一人物による移動かどうかまではわかりません）。

しかし、2010→2015年を見ると、2010年に5～49歳だった人々は全て転出超過になっています。2015→2020年には、人口流出は抑えられつつありますが、流入しているのは50～74歳のシニア世代となっています。子育て世代の誘引が重要になってくると思われます。

真鶴町の男女別人口増減



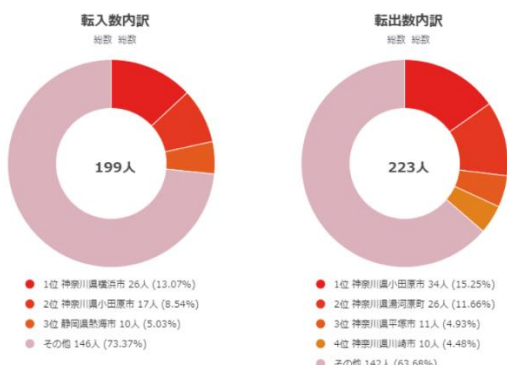
【出典】
真鶴町税務町民課「転入届・転出届」「出生届・死亡届」
【作成者】真鶴町

【分析】

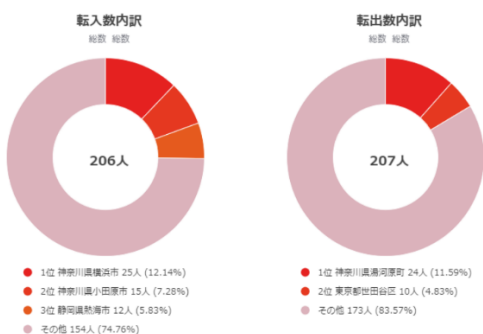
男女ともに自然減は毎月平均的に10名以下の減で推移しています。一方、社会減は何とか食い止められるかも知れないとも感じます。

転入数・転出数の上位地域 2019-2022年

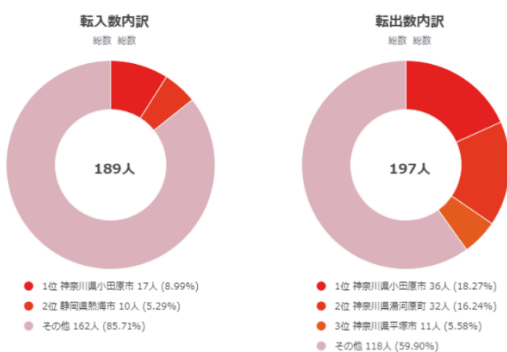
From-To分析(定住人口)
神奈川県真鶴町
2019年



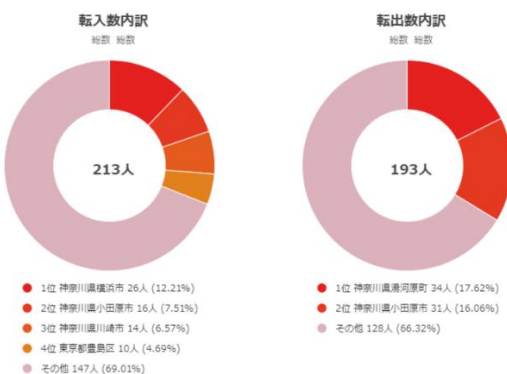
2020年



2021年



2022年



【出典】
総務省「住民基本台帳人口移動報告」

【分析】

2019年から2022年までの推移で見ると、転入元の上位には常に小田原市がいます。ただし、1位と2位を合わせても1割強にとどまります。一方、転出については1位と2位で2~3割となり、いずれも小田原市か湯河原町となっています。

流入者数・流出者数の上位地域

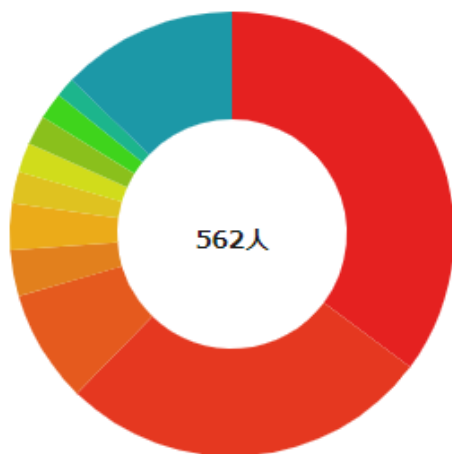
流入者数・流出者数の地域別構成割合

2020年 神奈川県真鶴町

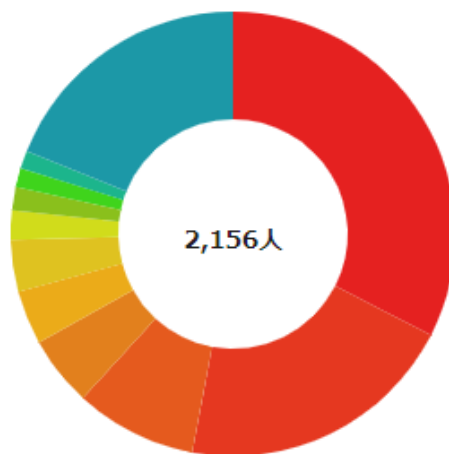
通勤者・通学者

流入者数：562人
流出者数：2,156人
(流出超過数：1,594人)

域内への流入者数



域外への流出者数



- 1位 神奈川県湯河原町 198人 (35.23%)
- 2位 神奈川県小田原市 152人 (27.05%)
- 3位 静岡県熱海市 46人 (8.19%)
- 4位 神奈川県南足柄市 19人 (3.38%)
- 5位 静岡県伊東市 19人 (3.38%)
- 6位 神奈川県二宮町 13人 (2.31%)
- 7位 神奈川県藤沢市 12人 (2.14%)
- 8位 神奈川県秦野市 12人 (2.14%)
- 9位 神奈川県平塚市 11人 (1.96%)
- 10位 神奈川県大井町 8人 (1.42%)
- その他 72人 (12.80%)

- 1位 神奈川県小田原市 701人 (32.51%)
- 2位 神奈川県湯河原町 440人 (20.41%)
- 3位 静岡県熱海市 191人 (8.86%)
- 4位 神奈川県横浜市 110人 (5.10%)
- 5位 神奈川県平塚市 85人 (3.94%)
- 6位 神奈川県箱根町 81人 (3.76%)
- 7位 神奈川県南足柄市 46人 (2.13%)
- 8位 神奈川県秦野市 36人 (1.67%)
- 9位 東京都千代田区 30人 (1.39%)
- 10位 神奈川県藤沢市 28人 (1.30%)
- その他 408人 (18.93%)

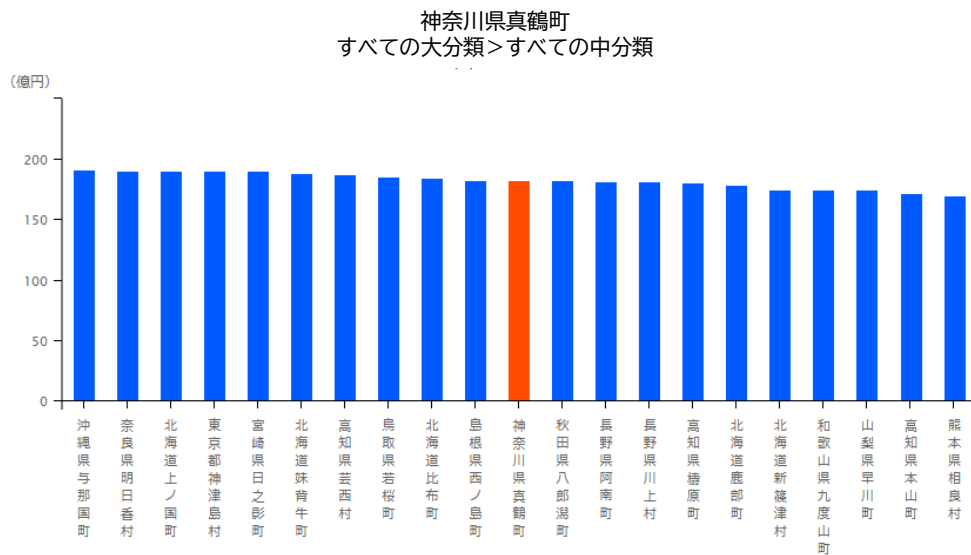
【出典】
総務省「国勢調査」

【分析】

流入は通勤・通学者の人数です。全町民の約3割が町外に通っています。一方で流入者は少ない状況であり、ベッドタウンと言えるでしょう。2020年の国勢調査で昼夜間人口比率（夜の人口100人あたりの昼の人口）を見ても、真鶴町は76.3と二宮町の75.4に次いで県内で2番目に低く、やはりベッドタウンです。

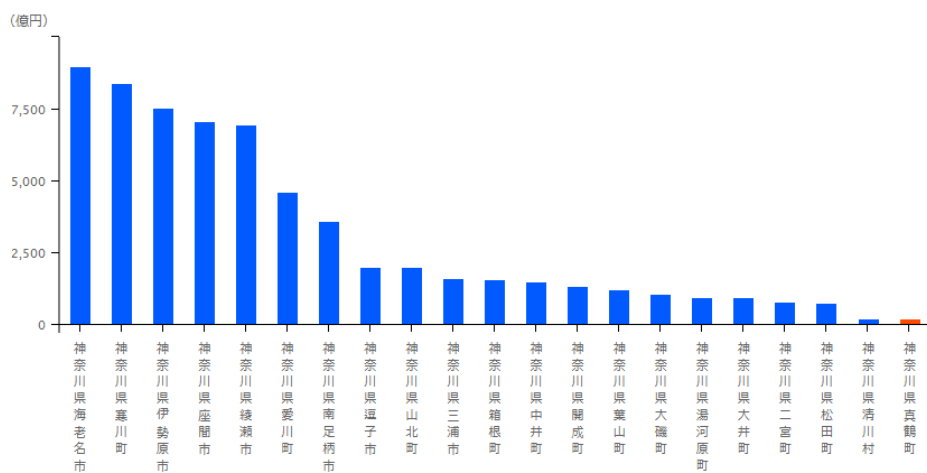
【経済規模】

生産額(総額-地域別)2018年 全国の分布



全体のこの辺りだけ表示しているという意味→

生産額(総額-地域別)2018年 神奈川県内の分布



全体のこの辺りだけ表示しているという意味→

【出典】

環境省「地域産業連関表」、「地域経済計算」(株式会社価値総合研究所(日本政策投資銀行グループ)受託作成)地域経済循環分析

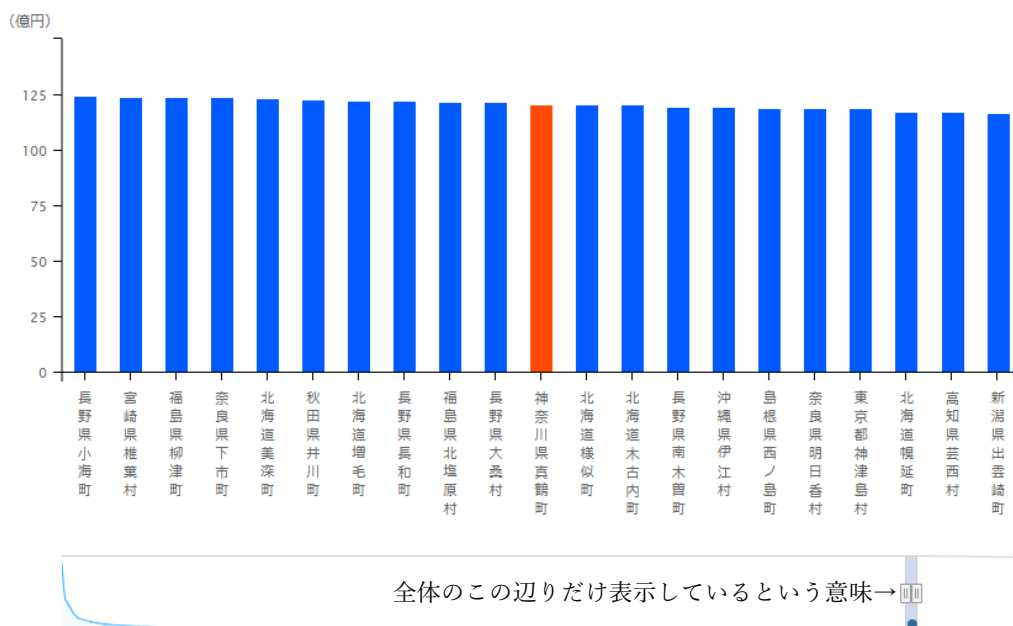
【分析】

生産額は全国でもかなり下の方です。真鶴町よりも上位に位置する自治体の中には、真鶴町より人口の少ない自治体があります。

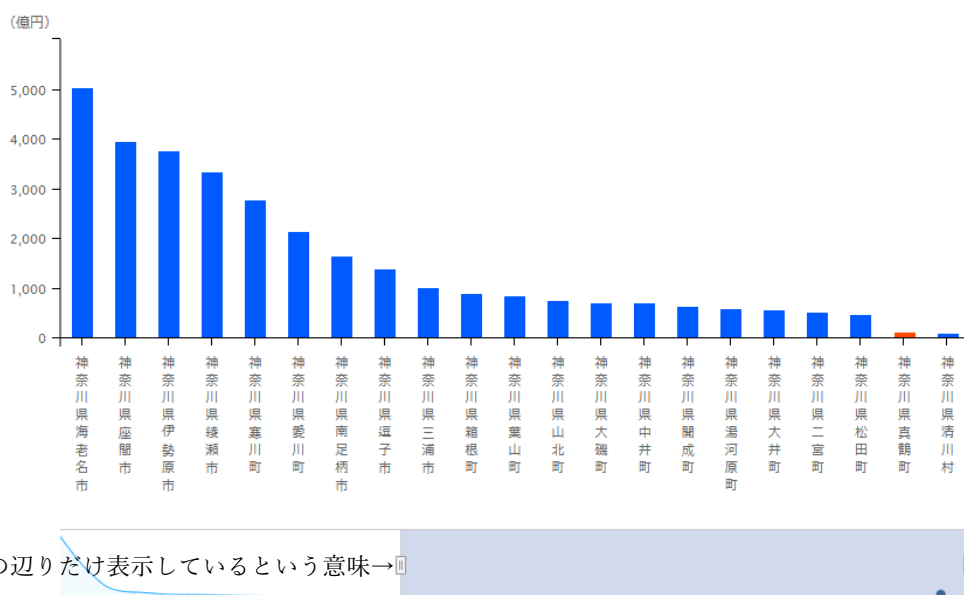
県内でも生産額は33市町村中最下位です。人口が真鶴町の半分以下である清川村(約2,900人)よりも下に位置しており、産業の町というより、やはりベッドタウンなのでしょう。

付加価値額(総額-地域別)2018年 全国の分布

神奈川県真鶴町
すべての大分類 > すべての中分類



付加価値額(総額-地域別)2018年 神奈川県内の分布



【出典】
環境省「地域産業連関表」、「地域経済計算」(株式会社価値総合研究所(日本政策投資銀行グループ)受託作成)地域経済循環分析

【分析】
売上高の総額となる生産額ではなく、「稼ぐ力」を表す付加価値額で見ても、全国の中で真鶴町は下位に位置します。県内で見ても最も低い水準です。

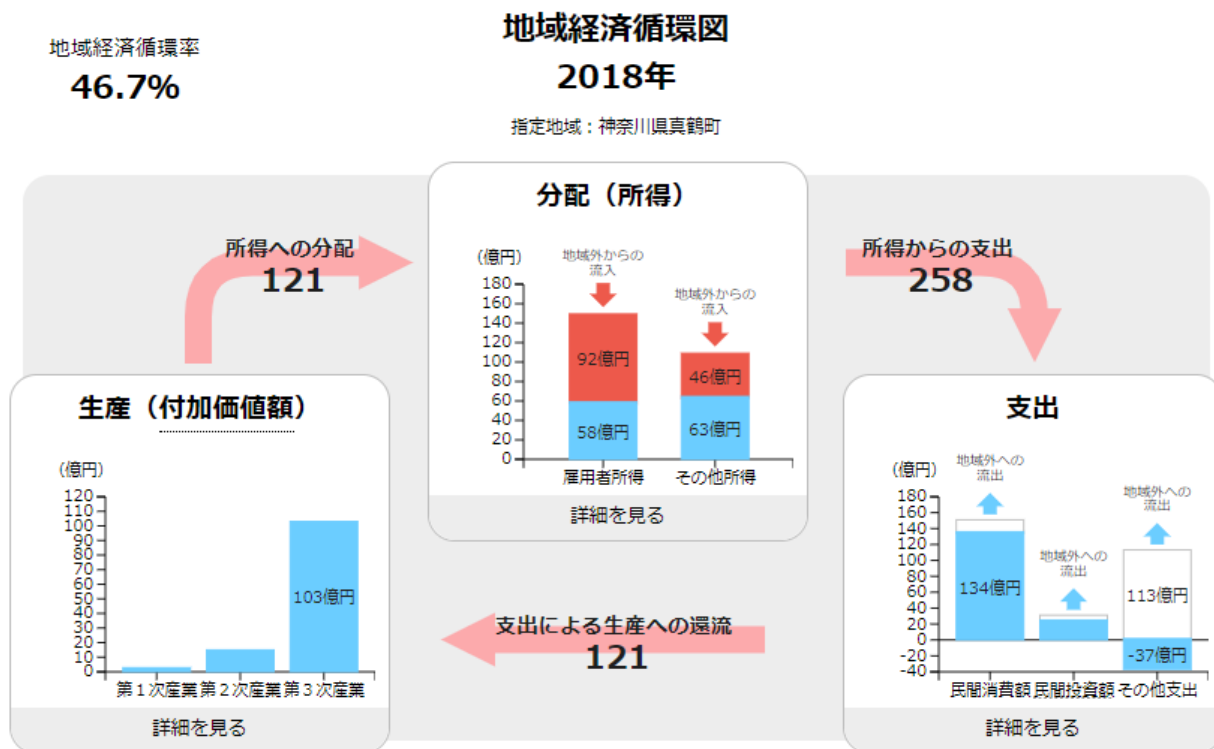
【地域経済循環】

地域経済循環図

生産とは、人が財やサービスを産み出す活動のことを指します。

分配とは、新たに生み出された生産物の価値の生産主体間の配分をいいます。

支出とは、世帯の支払う生活費等のことをいいます。



【出典】

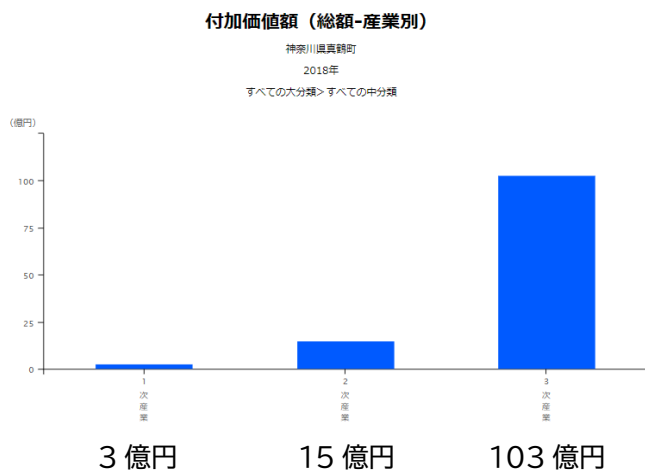
環境省「地域産業連関表」、「地域経済計算」(株式会社価値総合研究所(日本政策投資銀行グループ)受託作成)、地域経済循環分析

【分析】

生産面で稼いだ付加価値額のうち 121 億円分が所得として分配され、更に地域外からの 138 億円とあわせ地域住民の所得となっています。また、所得 258 億円のうち町外に流出している支出も少なくないことも分かります。

次ページ以降でより詳しく見てみましょう。

生産(付加価値額)



付加価値額 (一人当たり) 2018年

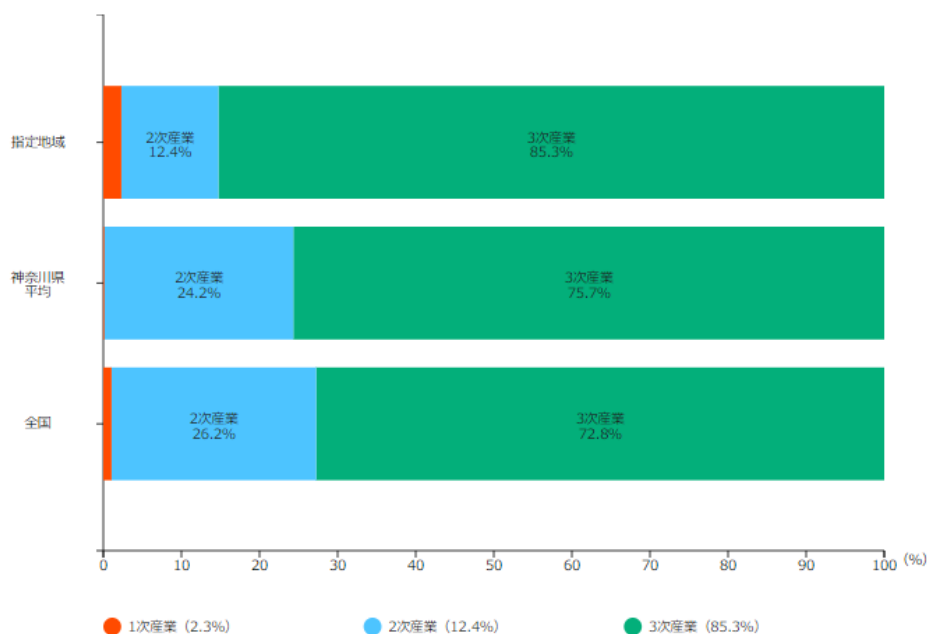
指定地域：神奈川県真鶴町

	第1次産業	第2次産業	第3次産業
付加価値額 (一人当たり)	325万円	433万円	827万円
付加価値額 (一人当たり) 順位	590位	1,650位	767位

地域内産業の構成割合(付加価値額総額)2018年

地域内産業の構成割合 (付加価値額 (総額))

神奈川県真鶴町
 2018年



【出典】

環境省「地域産業連関表」、「地域経済計算」(株式会社価値総合研究所(日本政策投資銀行グループ)受託作成)地域経済循環分析

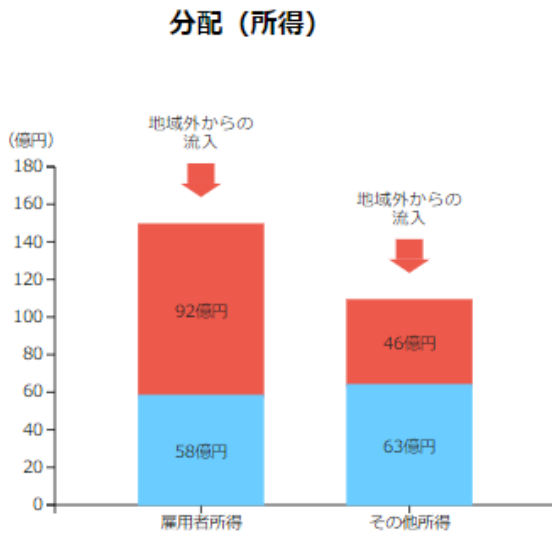
【分析】

真鶴町と言えば、「漁業の町」(第1次産業)というイメージがありますが、実際には第3次産業が最も大きくなっています。

ただし、産業全体の中で第1次産業の占める割合は少ないものの、全国的に見ると多いほうであり、一人当たりの付加価値額も高めです。

また、製造業や建設業などの第2次産業の割合が県平均の半分程度と少なく、一人当たりの付加価値額も低いことも特徴です。

分配(所得)

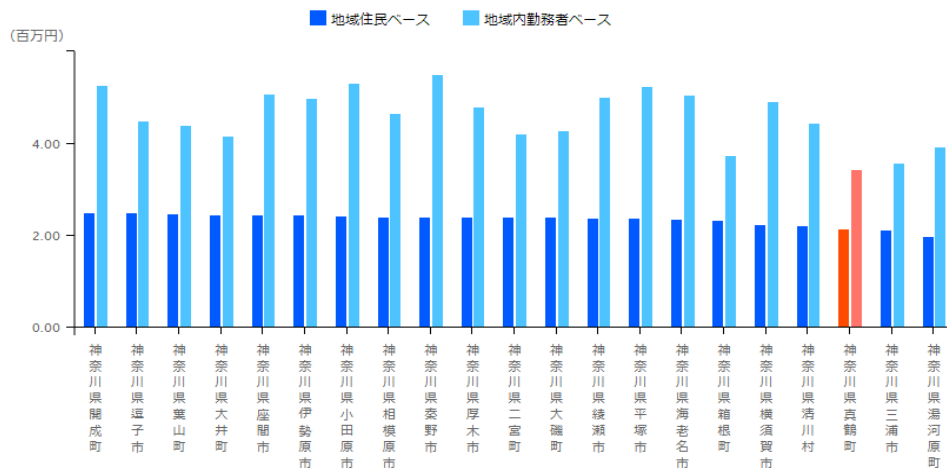


所得 (一人当たり) 2018年

指定地域：神奈川県真鶴町

	雇用者所得	その他所得
所得 (一人当たり)	215万円	157万円
所得 (一人当たり) 順位	877位	1,588位

雇用者所得(一人当たり)2018年 神奈川県内の分布



全体のこの辺りだけ表示しているという意味→

【出典】

環境省「地域産業連関表」、「地域経済計算」(株式会社価値総合研究所(日本政策投資銀行グループ)受託作成)地域経済循環分析

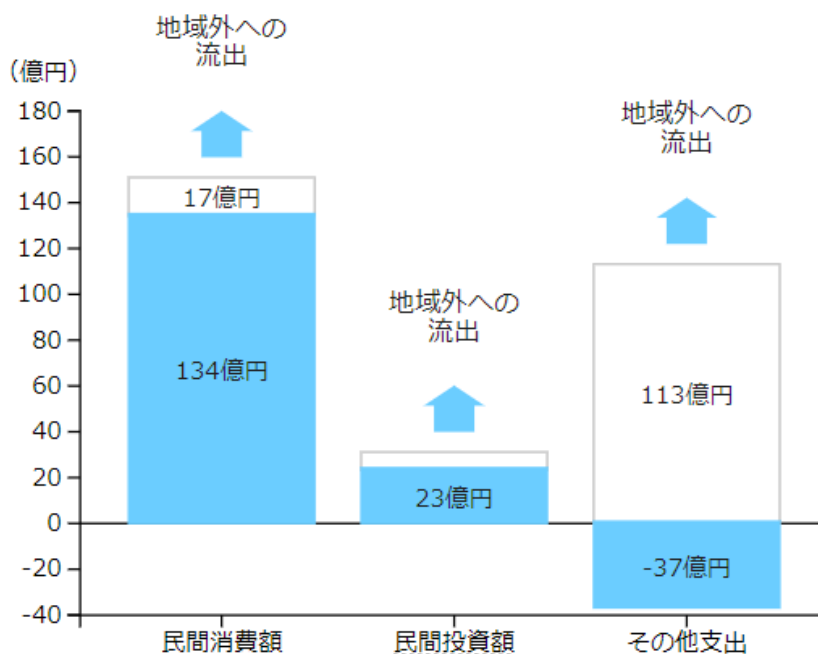
【分析】

分配(所得)について、地域外からの流入が、地域内の1.5倍以上になっています。このことから、多くの町民が町外に働きに出ていることがわかります。一人当たりの所得は、1,700余りの地方自治体中877番目で、真ん中あたりに位置します。

また、県内の分布を見ると、真鶴町には大きな企業がないこともあり、地域内勤務者ベースの所得は三浦市や湯河原町よりも下で県内最低ですが、地域住民ベースで見ると三浦市や湯河原町よりも上です。真鶴町民が町外へ働きにいったり稼いでいるようです。とはいえ、県内でも所得が低い町と断言していいでしょう。

支出

支出



支出流出入率 2018年

指定地域：神奈川県真鶴町

	民間消費	民間投資	その他支出
支出流出入率	-11.1%	-25.0%	-148.3%
支出流出入率 順位	1,142位	1,057位	1,687位

【出典】

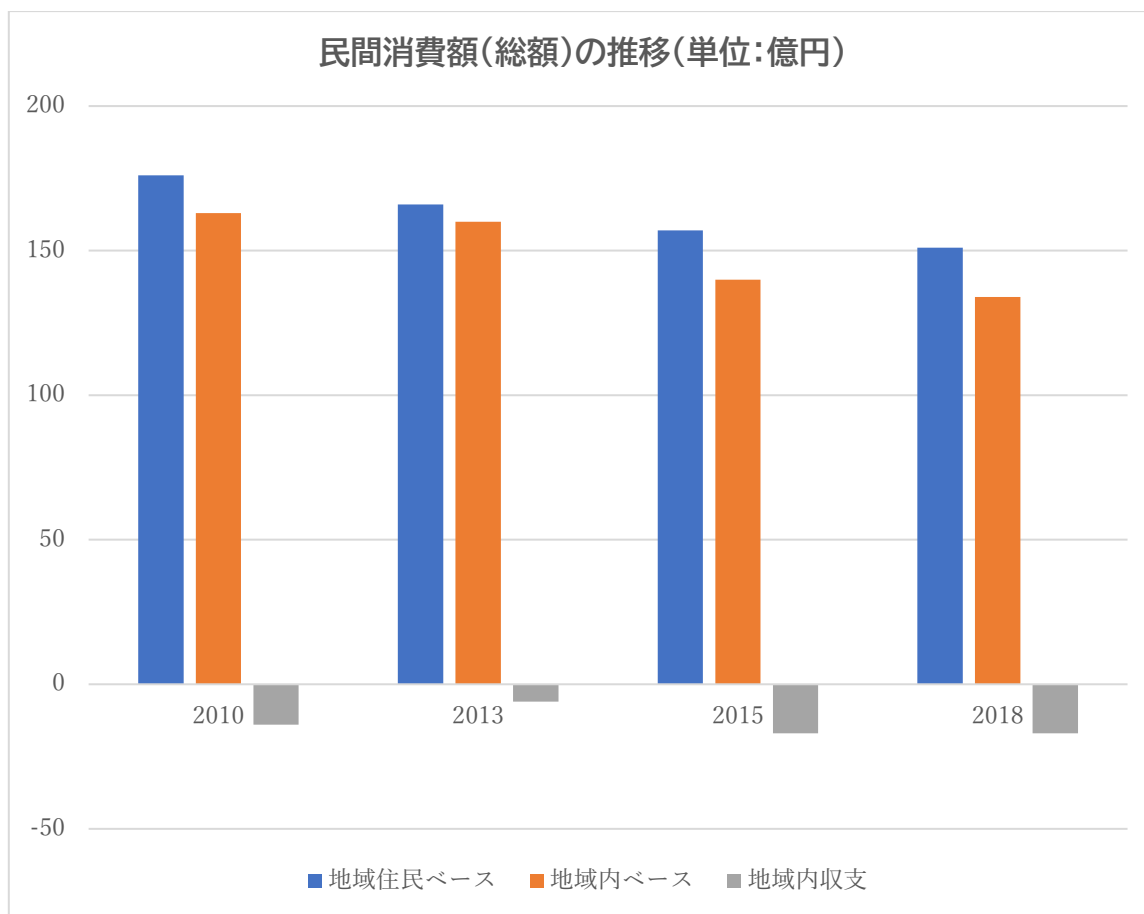
環境省「地域産業連関表」、「地域経済計算」(株式会社価値総合研究所(日本政策投資銀行グループ)受託作成)地域経済循環分析

【分析】

企業の設備投資等を示す「民間投資額」は町外への流出が多いことが分かります。

町役場や企業などの「その他支出」については、それ以上に大きくマイナスになっています。

民間消費額(総額)の推移



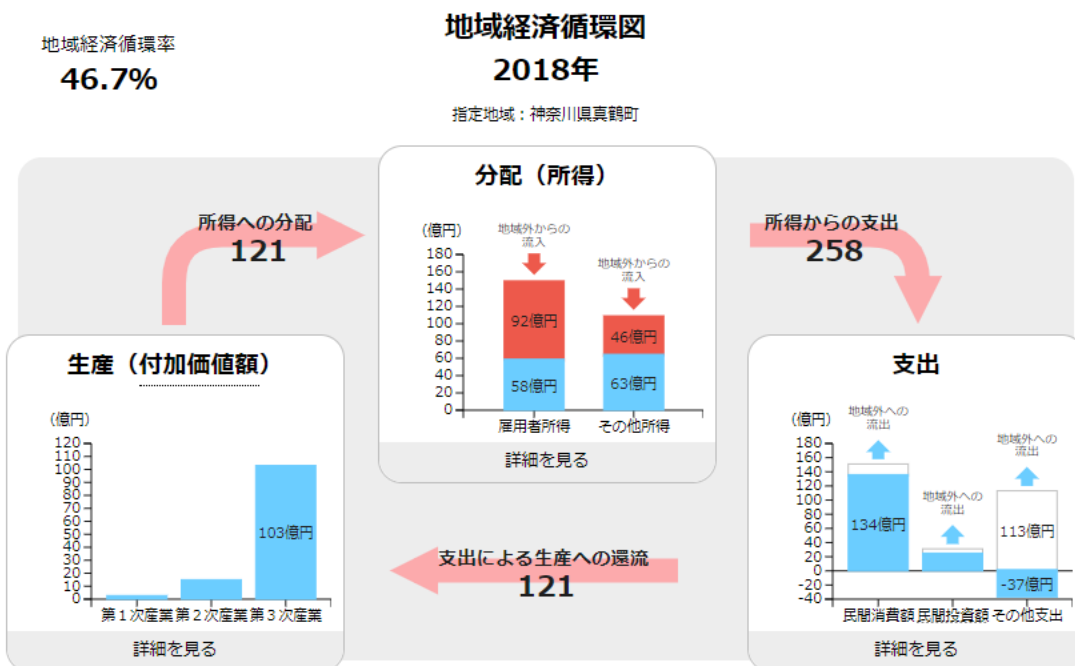
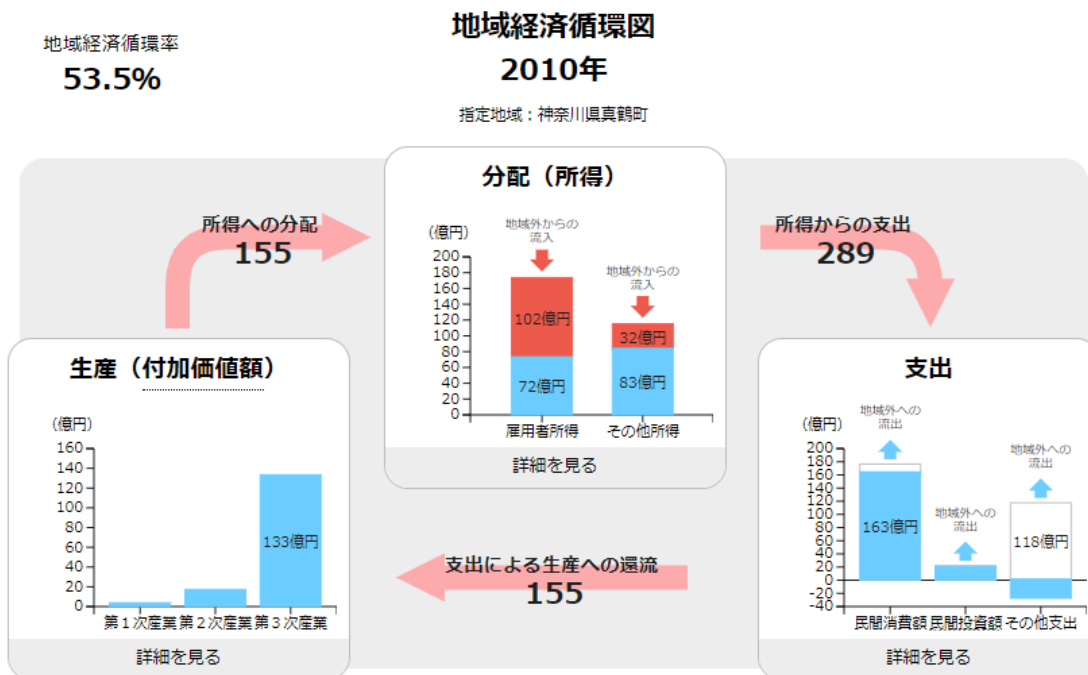
【出典】

環境省「地域産業連関表」、「地域経済計算」(株式会社価値総合研究所(日本政策投資銀行グループ)受託作成)地域経済循環分析
【作成者】真鶴町

【分析】

町民は町内で消費しているのか？民間消費額の地域内収支を見ると、毎回マイナスとはいえ、その額はそこまで大きくありません。真鶴町にはスーパーやコンビニ等があるので、日常の買い物は基本的に町内で済ませて、ときどき町外に買物に行くということでしょうか。

地域経済循環 8年前との比較



【出典】

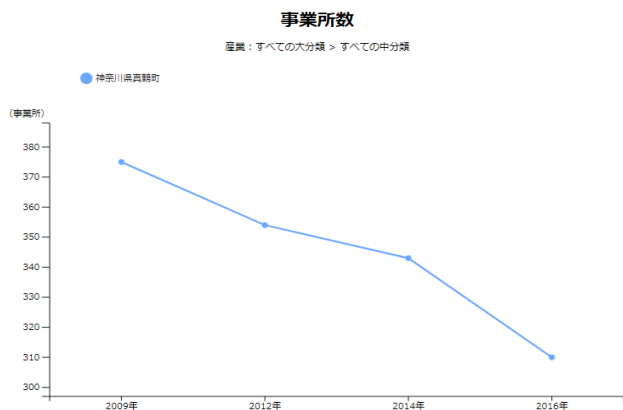
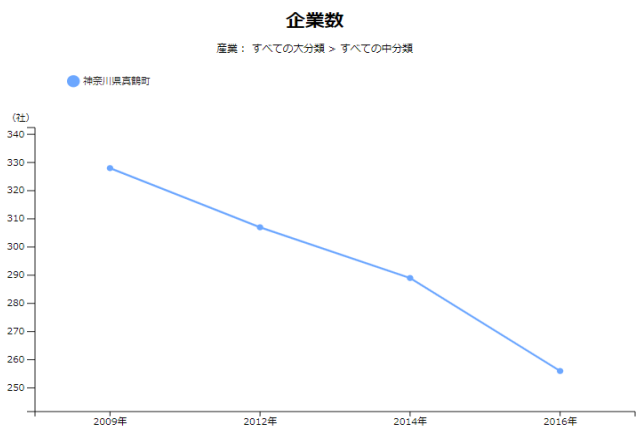
環境省「地域産業連関表」、「地域経済計算」(株式会社価値総合研究所(日本政策投資銀行グループ)受託作成)地域経済循環分析

【分析】

2010年から2018年の8年間の地域経済循環率の変化を見ると、7%近く下落しています。生産（付加価値額）も分配（所得）も支出も全てが減少しています。真鶴町の経済規模が縮小し、地域内でお金が回らなくなっていることがわかります。

【全産業】

企業数、事業所数、従業員数



【分析】

企業数

328→256 社 約 22%減

事業所数

375→310 事業所 約 17%減

従業者数

1850→1540 人 約 17%減

2009年から2016年の7年間で全て減少となっており、産業が全体として衰退していることがわかります。

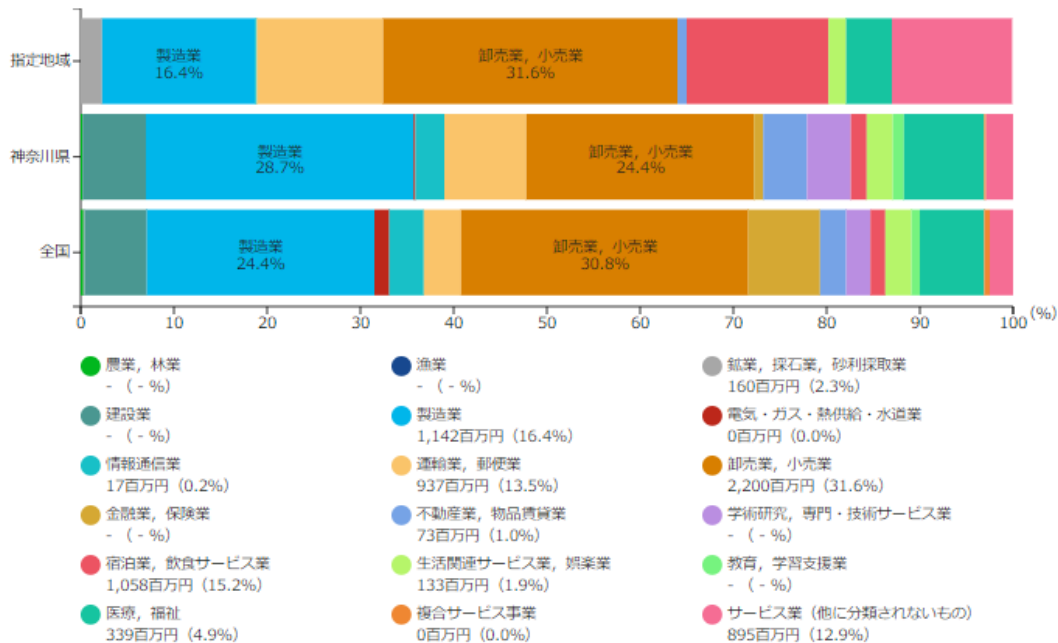
【出典】

総務省「経済センサス-基礎調査」再編加工、総務省・経済産業省「経済センサス-活動調査」再編加工

産業大分類別に見た売上高(企業単位)の構成比 2016年

売上高(企業単位) 2016年

指定地域：神奈川県真鶴町



【出典】

総務省「経済センサスー基礎調査」再編加工、総務省・経済産業省「経済センサスー活動調査」再編加工

順位	産業大分類	構成比
1	卸売業、小売業	31.6%
2	製造業	16.4%
3	宿泊業、飲食サービス業	15.2%
4	運輸業、郵便業	13.5%
5	サービス業（他に分類されないもの）	12.9%
6	医療、福祉	4.9%
7	鉱業、採石業、砂利採取業	2.3%
8	その他	3.1%

【出典】

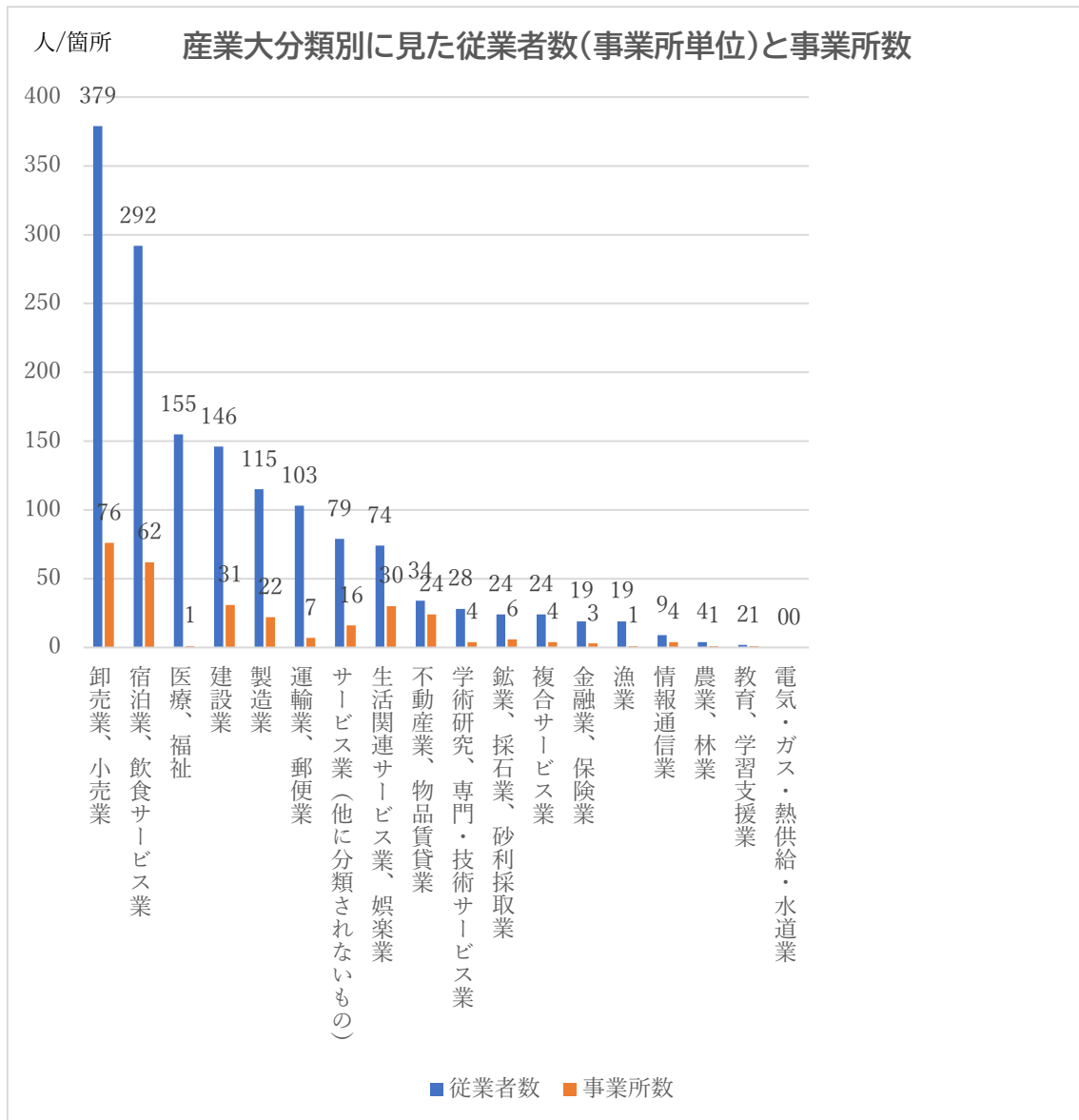
総務省「経済センサスー基礎調査」再編加工、総務省・経済産業省「経済センサスー活動調査」再編加工

【作成】真鶴町

【分析】

真鶴町の主力産業は何か？国、県と比べてみると、鉱業、採石業、砂利採取業の割合が大きめであるのが特徴的ですが、製造業は小さめです。一方、運輸業や宿泊業、飲食サービス業、サービス業が多い割合を占めています。

産業大分類別に見た従業者数(事業所単位)と事業所数

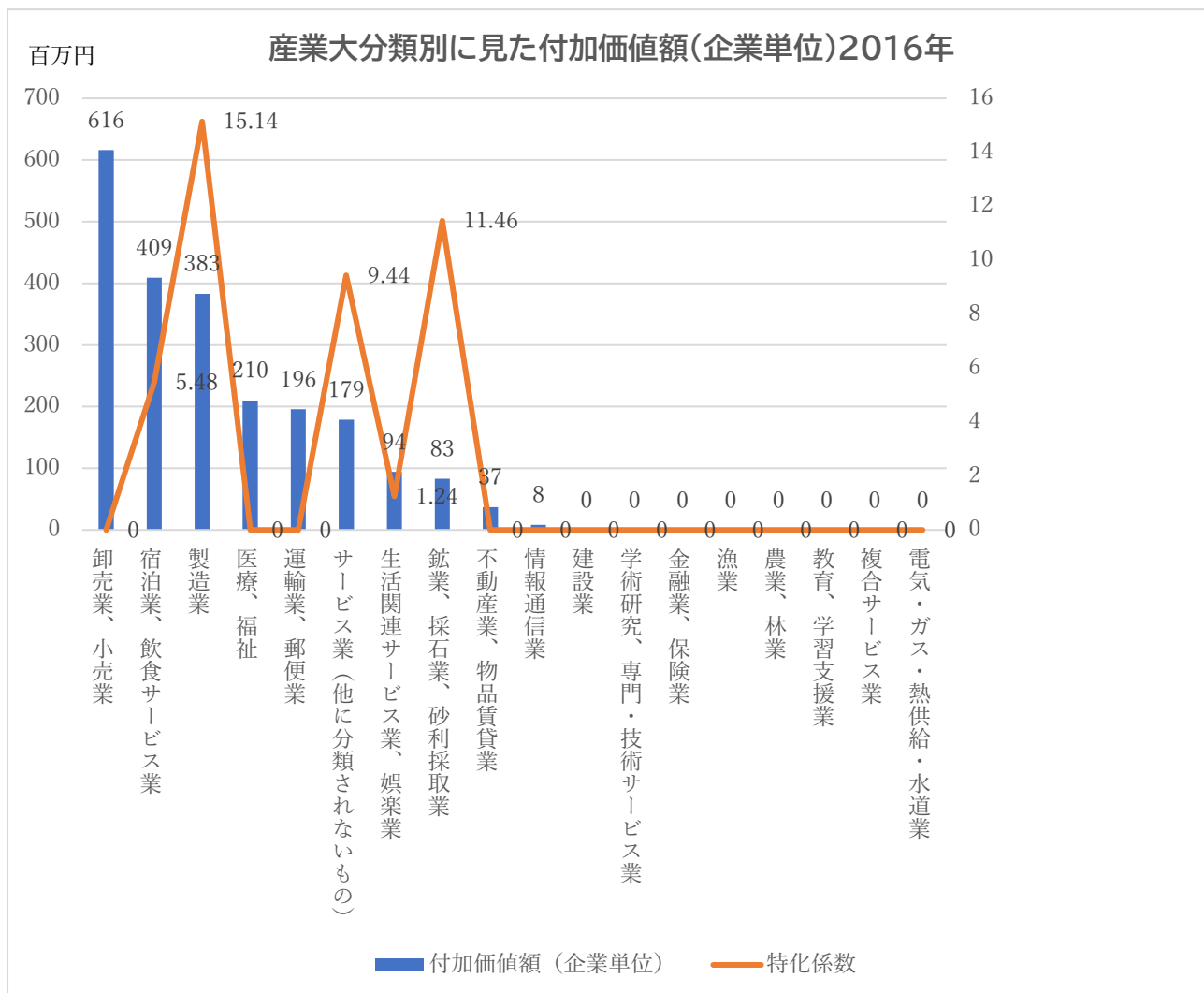


【出典】
 総務省「経済センサス-基礎調査」再編加工、総務省・経済産業省「経済センサス-活動調査」再編加工
 【作成】真鶴町

【分析】

前ページで見たように町内で最も売上高の大きな産業は卸売業，小売業でした。従業者数と事業所数で見ても1位は卸売業，小売業となっています。

産業大分類別に見た付加価値額(企業単位)2016年



【出典】

総務省「経済センサス-基礎調査」再編加工、総務省・経済産業省「経済センサス-活動調査」再編加工

【作成】真鶴町

【分析】

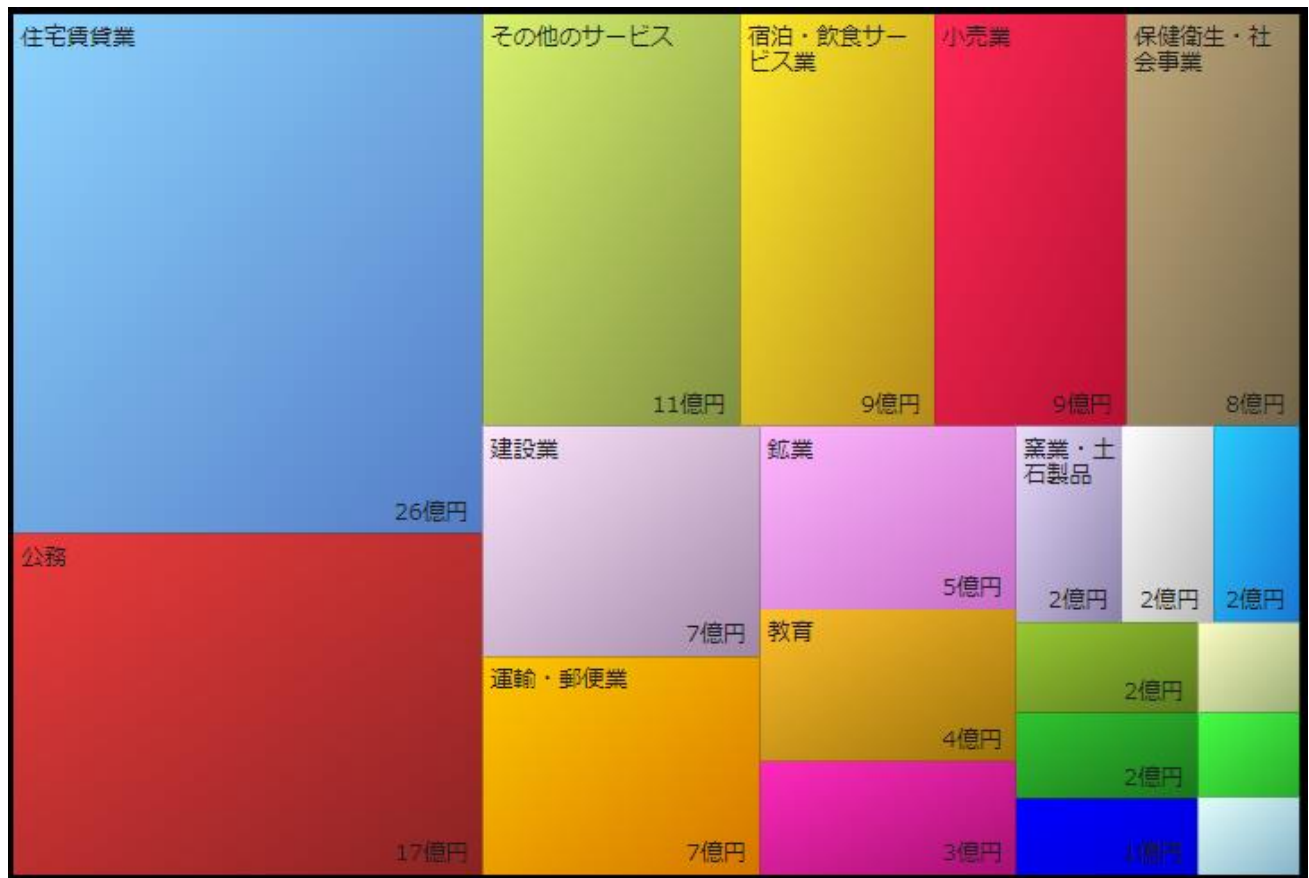
「稼ぐ力」を表す付加価値額が最も高いのは、卸売業、小売業です。

なお、全国の傾向と比べると構成比が高いことを表す「特化係数」が高いのは、製造業と鉱業、採石業、砂利採取業です。本小松石の産地として知られる真鶴町において石材業に一定の存在感があることが分かります。

付加価値額(総額)2018年 中分類

産業分類カラー

付加価値額(総額): 121億円
 移輸出入収支額(総額): -115億円



上図以外の付加価値額の合算: 1億円



【出典】

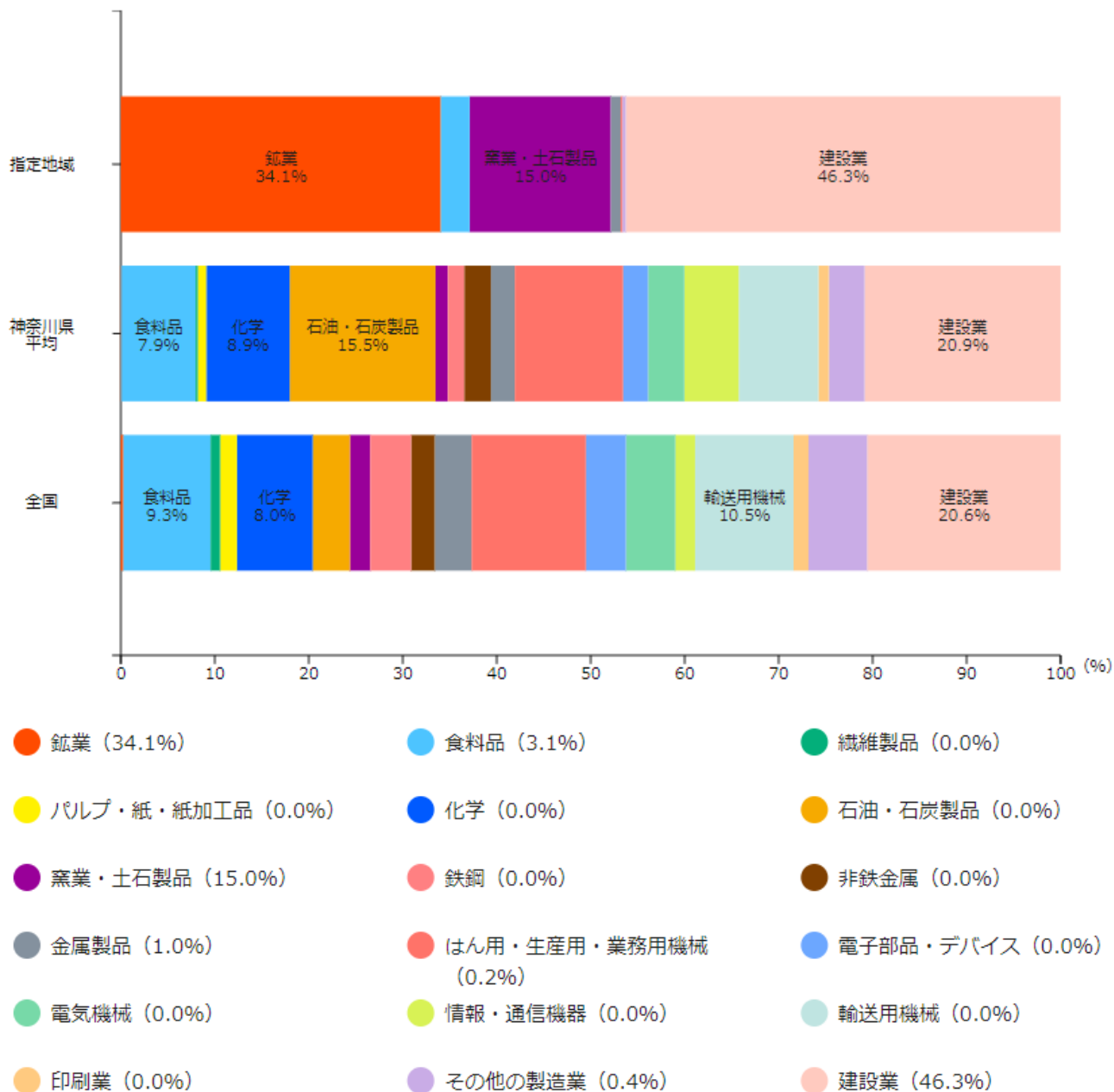
総務省「経済センサス-基礎調査」再編加工、総務省・経済産業省「経済センサス-活動調査」再編加工

【分析】

民間企業だけでなく、公務も含めた付加価値額を中分類でより細かく見ると、住宅賃貸業が全体の約21.4%を占めており、続く公務（おそらく大半が町役場）が14.0%で、1位2位あわせて全体の3分の1以上を占めていることがわかります。

第2次産業の産業大分類別に見た構成比(付加価値額総額)

2次産業



【出典】
 総務省「経済センサス-基礎調査」再編加工、総務省・経済産業省「経済センサス-活動調査」再編加工

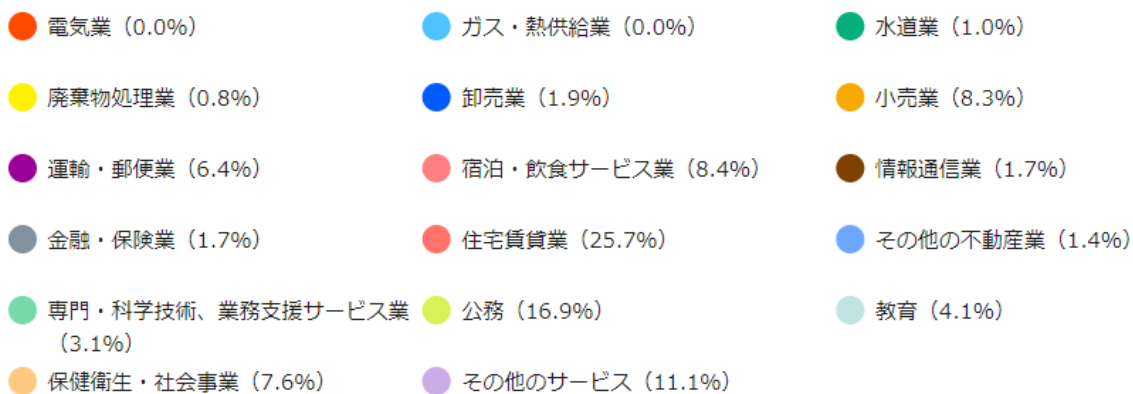
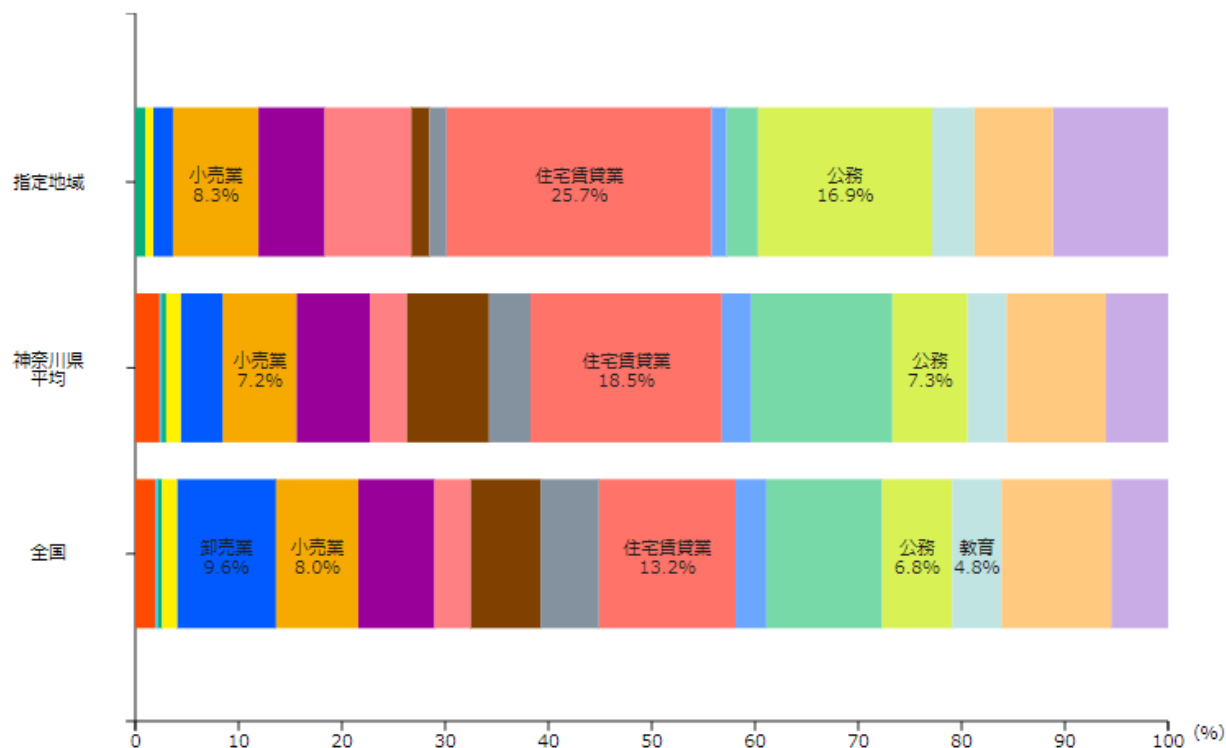
【分析】

第2次産業の「稼ぐ力」の内訳を見てみましょう。全国や県内と比べ、鉱業と窯業・土石製品が大きな割合を占めており、製造業においても産出した石材の加工が主力となっていることが分かります。また、建設業の存在感も大きくなっています。

※窯業・土石製品製造業とは、セメント及び同製品、建設用粘土製品、陶磁器、耐火物、石工品などを製造する産業のこと。

第3次産業の産業大分類別に見た構成比(付加価値額総額)

3次産業



【出典】

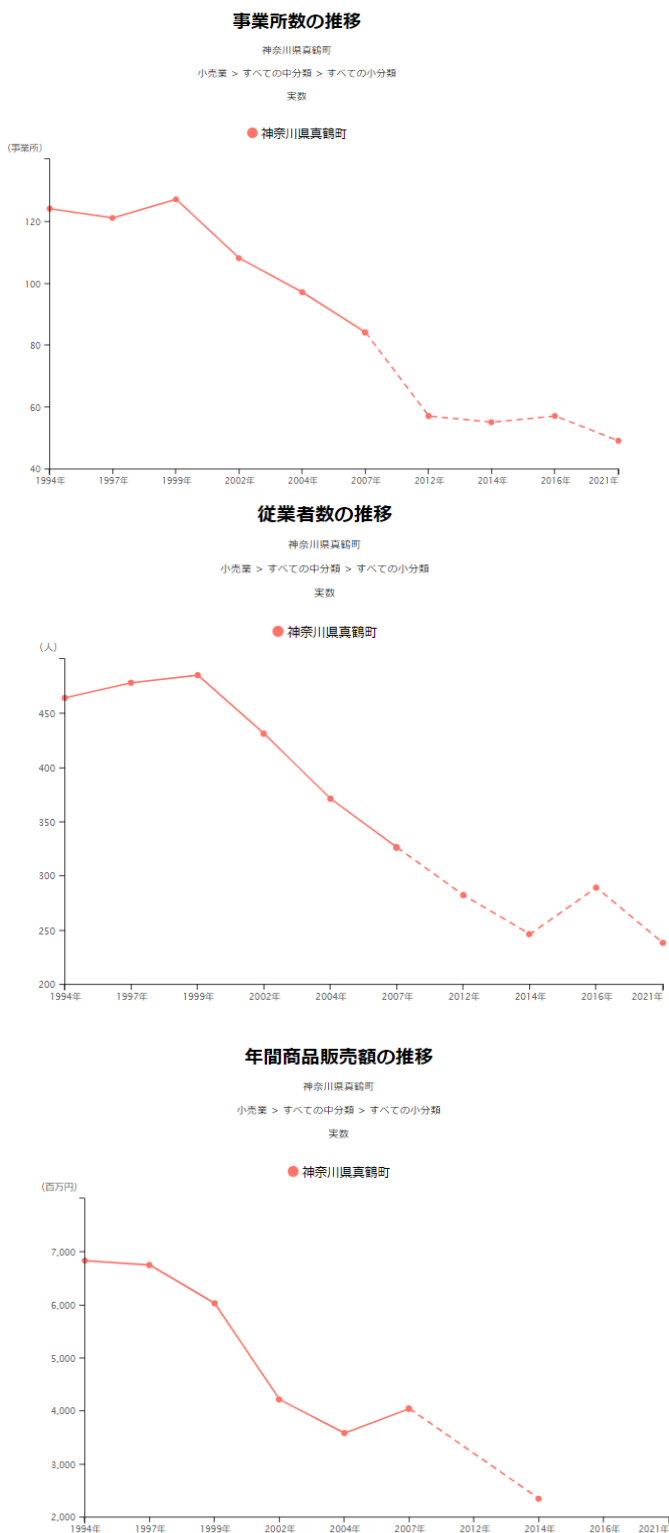
総務省「経済センサス-基礎調査」再編加工、総務省・経済産業省「経済センサス-活動調査」再編加工

【分析】

第3次産業の「稼ぐ力」の内訳を見てみましょう。全国平均や県平均と比べると住宅賃貸業や公務の割合が大きくなっています。公務とは主に町役場だと思われます。

【小売業】

小売業の事業所数・従業者数・年間商品販売額の推移



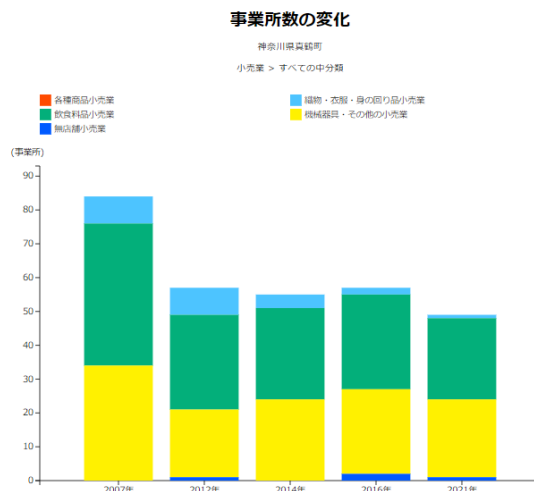
【分析】

町内の産業として、存在感の大きい小売業について見ていきましょう。
 どの指標も小売業が右肩下がりであることを表しています。

【出典】

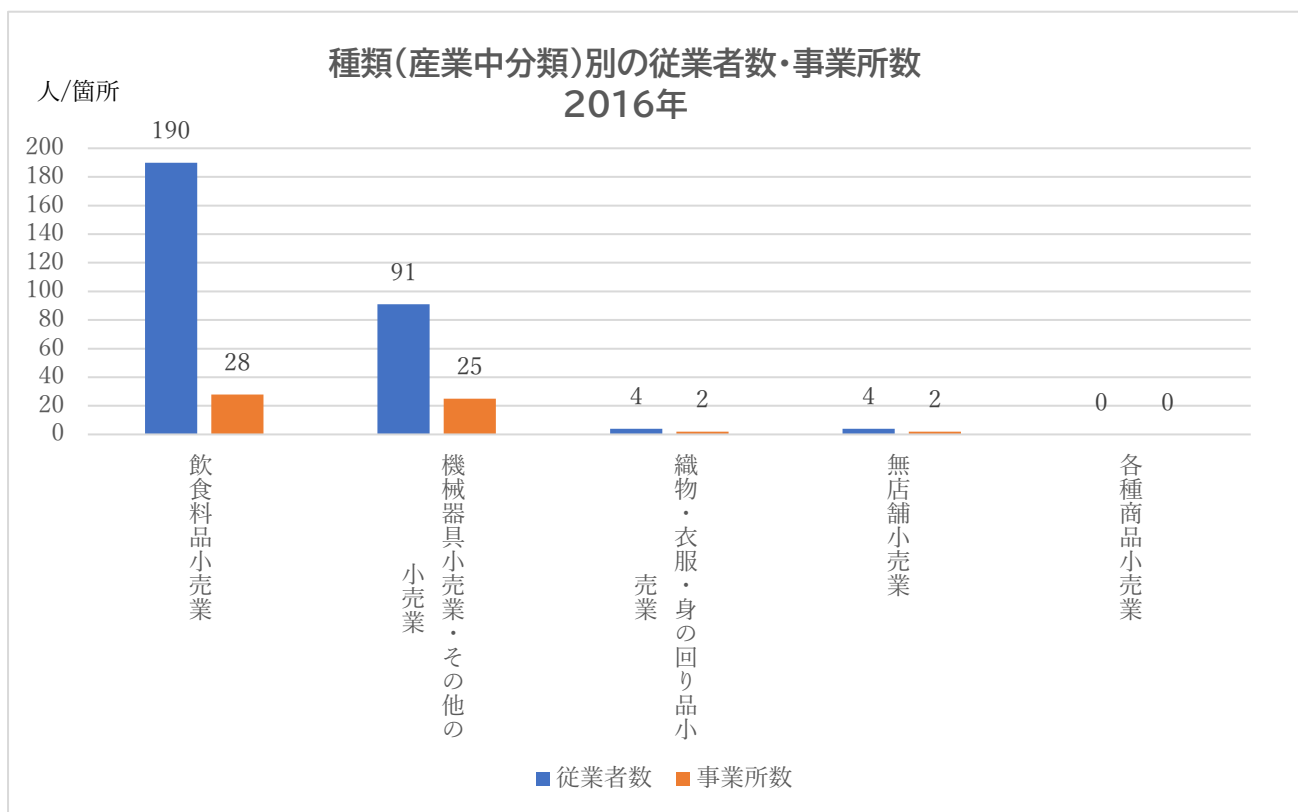
経済産業省「商業統計調査」
 総務省・経済産業省「経済センサス-活動調査」

小売業の種類(産業別小売業)別の事業所数の推移



【出典】
経済産業省「商業統計調査」、総務省・経済産業省「経済センサスー活動調査」

小売業の種類(産業中分類)別の従業者数・事業所数



【出典】
経済産業省「商業統計調査」、総務省・経済産業省「経済センサスー活動調査」
【作成】真鶴町

【分析】

2007年から2012年にかけて小売業の事業所数は大きく減少しました。その後は概ね横ばいになっています。通販など無店舗小売業が立地し始めたことにも気付きます。

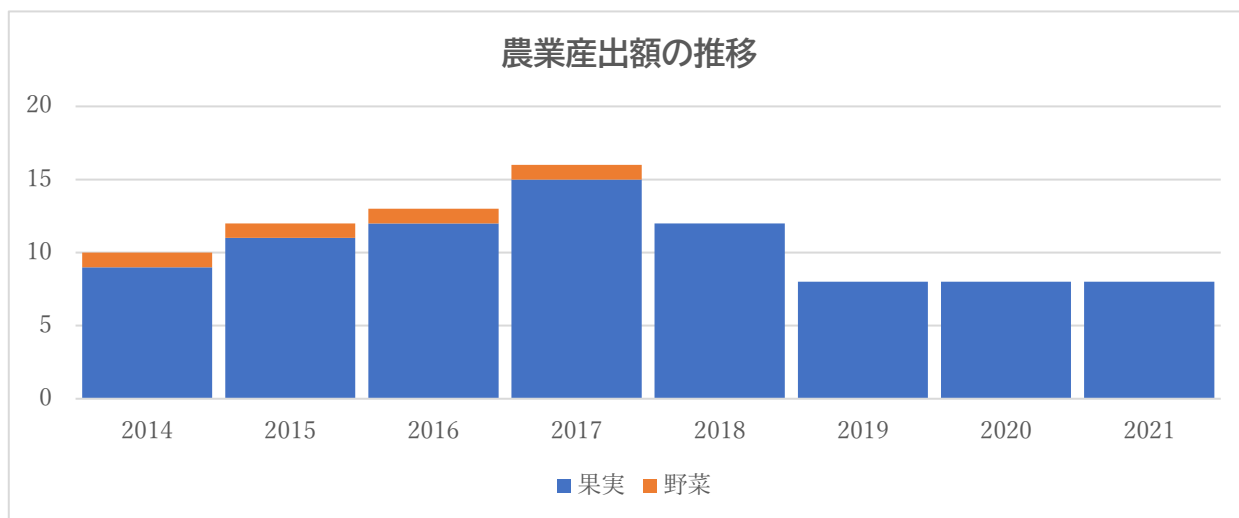
【農業】

品目別農業算出額 2020年



【出典】
農林水産省「市町村別農業産出額(推計)」

農業産出額の推移



【出典】
農林水産省「市町村別農業産出額(推計)」
【作成】真鶴町

【分析】

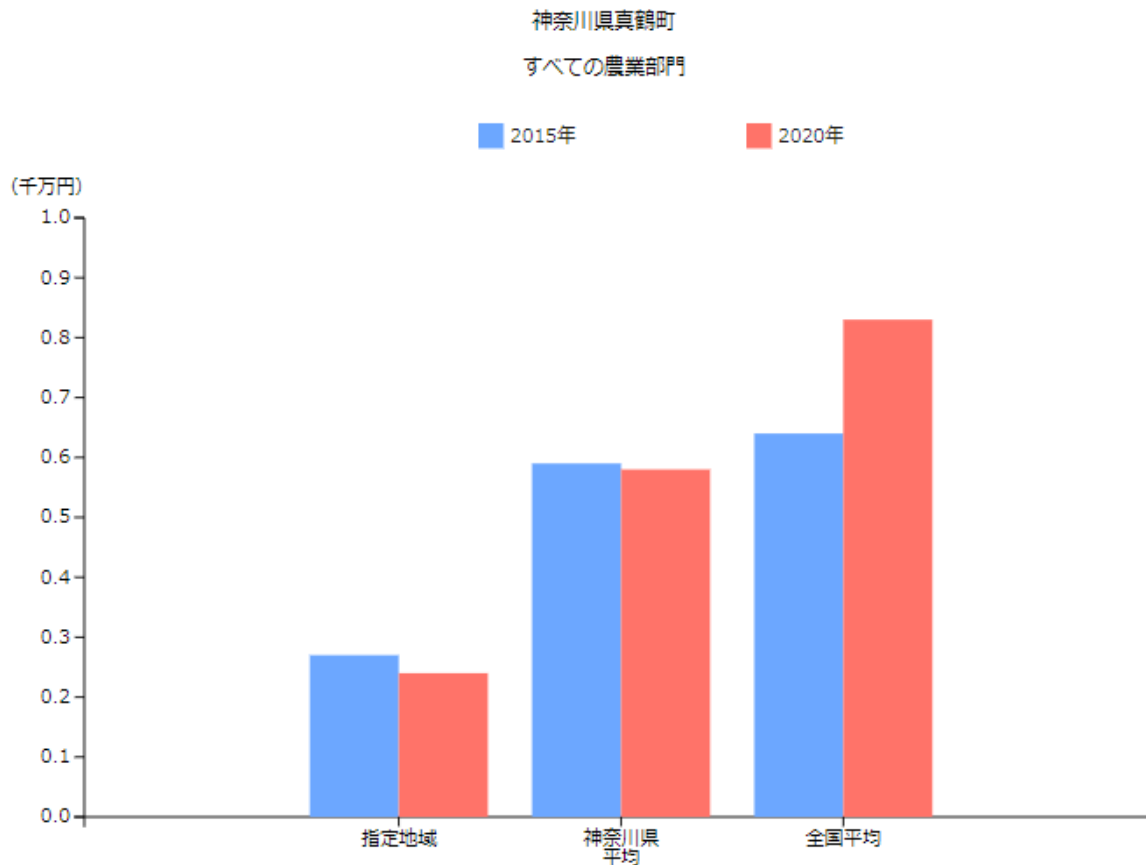
真鶴町の農業産出額は、およそ9千万円で、そのうち8千万円が果実です。

みかんやレモンなどの柑橘類が主な品目と考えられます。

推移を見ると、2017年までは産出額が増えていましたが、その後減少に転じました。2019年以降は横ばいです。

経営体あたり農業産出額(地域間比較)2015～2020年

農業産出額（経営体あたり）



【出典】

農林水産省「農林業センサス」、農林水産省「市町村別農業産出額(推計)」

【分析】

農家一軒あたりの産出額は、神奈川県平均と比べても半分以下であり、非常に低水準であることが分かります。2020年には一軒あたりの売上が250万円程度となっており、事業として成り立っていない農家さんが多いとみられます。

年齢階級別農業就業者比率と平均年齢

農業就業人口の年齢構成
 指定地域: 神奈川県真鶴町
 性別: 総数



【出典】農林水産省「農林業センサス」再編加工

【分析】

2005年 (平均年齢:60歳)

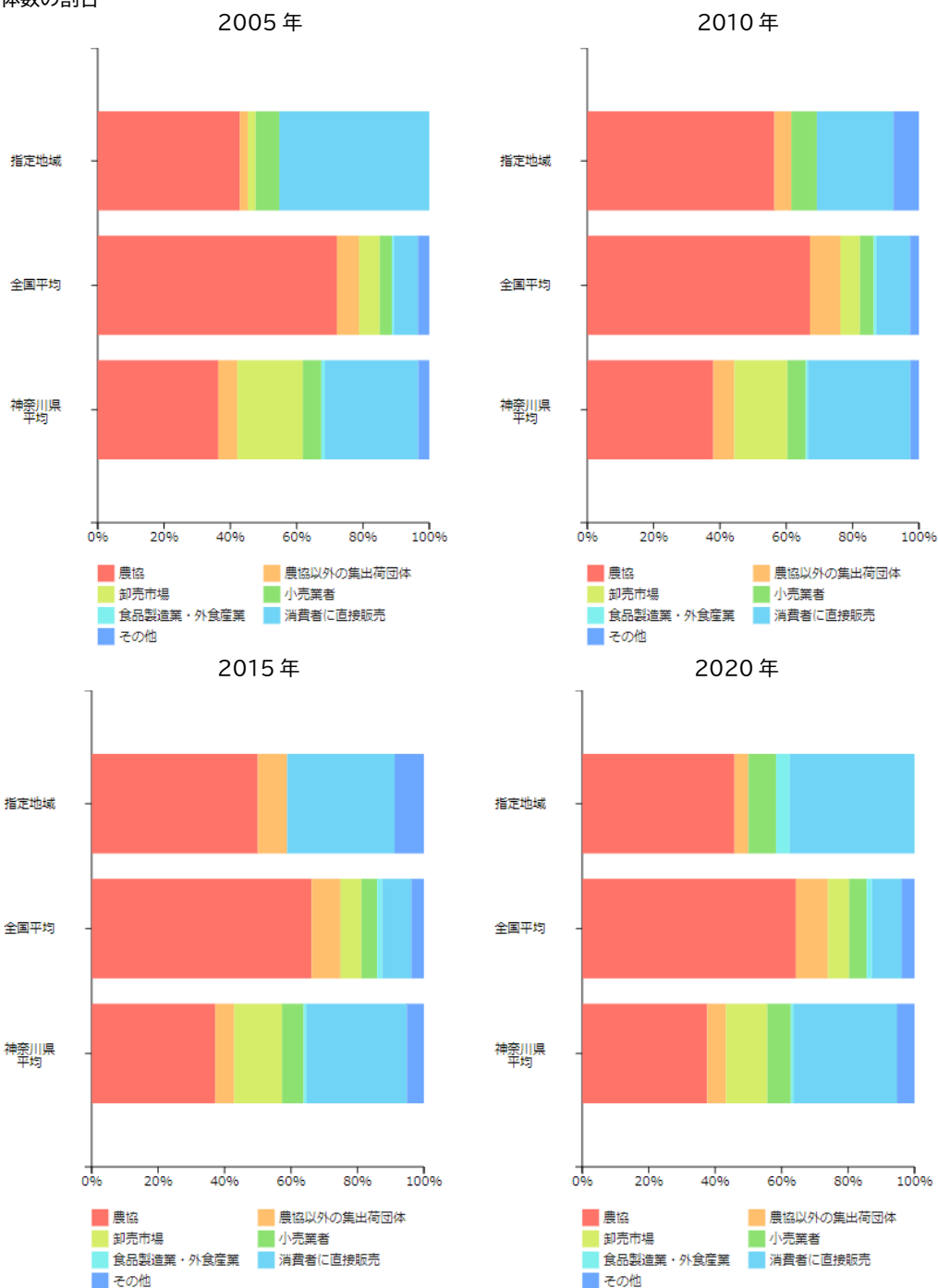
2010年 (平均年齢:66歳)

2015年 (平均年齢:69歳)

農業就業者の高齢化が進んでいることが分かります。

農産物の出荷先別経営体数割合の推移

農産物の出荷先別経営体数の割合



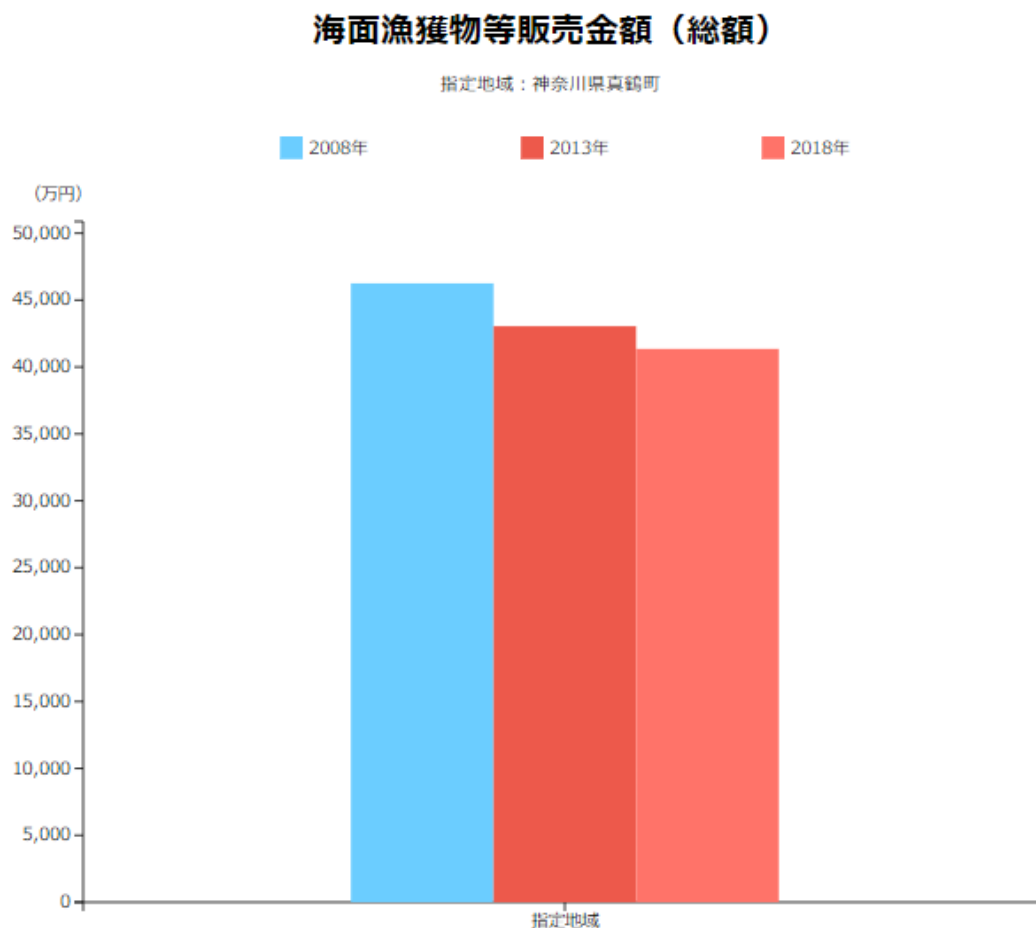
【出典】農林水産省「農林業センサス」再編加工

【分析】

真鶴町の農業は、一貫して農協への出荷が半分程度のようなのです。

【水産業】

漁獲物等販売金額・漁業経営体数の推移



【出典】農林水産省「漁業センサス」再編加工

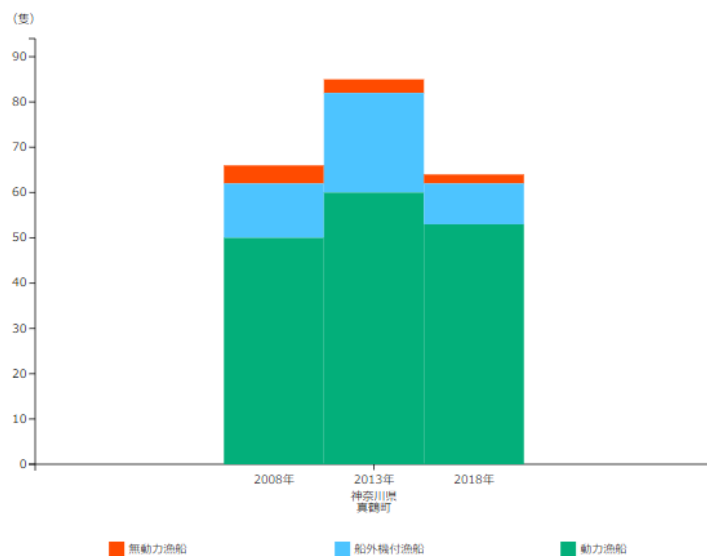
【分析】

販売金額は2008年の4億6千万円から2018年の4億1千万円へと10年間でおおよそ1割減となっています。

漁船隻数の推移

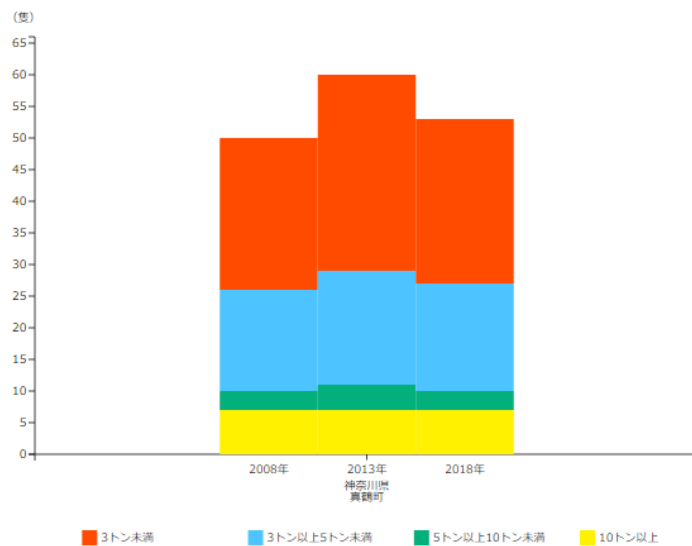
漁船隻数(漁船種類別)

指定地域：神奈川県真鶴町



漁船隻数(動力漁船の総トン数別)

指定地域：神奈川県真鶴町



【出典】農林水産省「漁業センサス」再編加工

【分析】

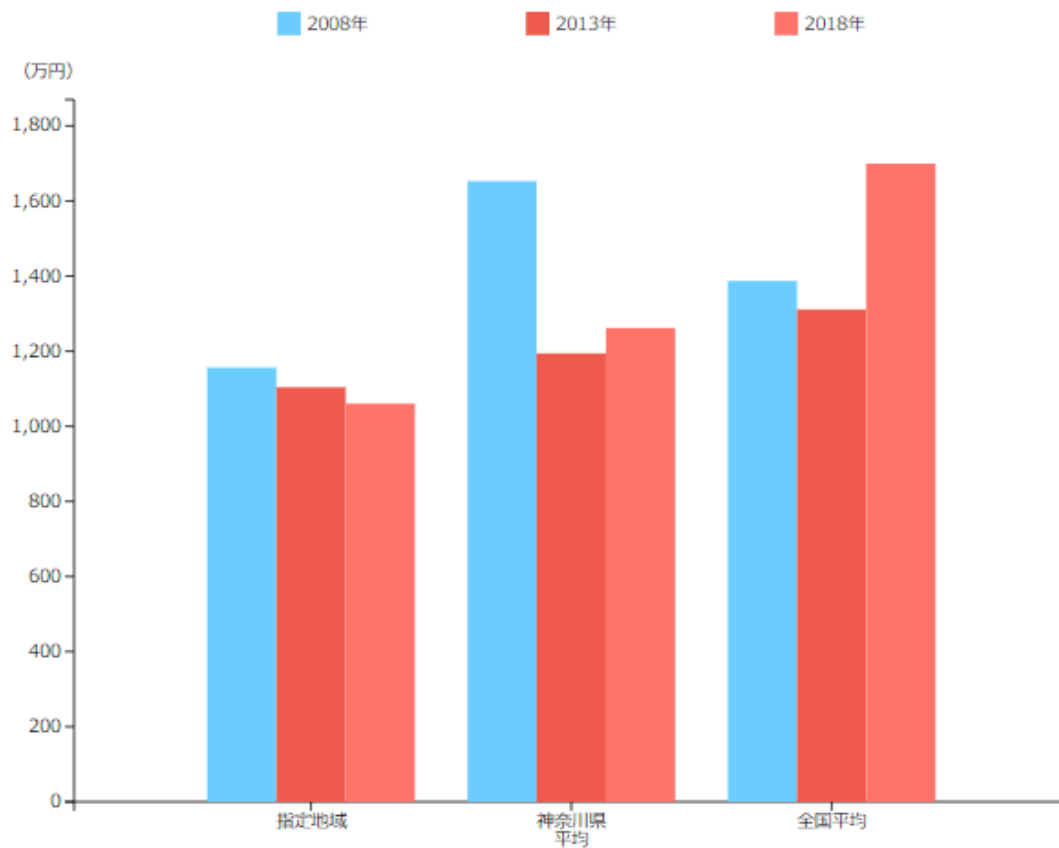
10 トン以上の漁船の隻数は横ばいですが、小さいトン数のモーターボート式の漁船が、一時的に増えて元に戻っています。

※トン は容積の単位です。重さの単位の t とは異なります。酒樽を叩く音からトンと言われるようになったそうです。

経営体あたり漁獲物等販売金額(地域間比較)

海面漁獲物等販売金額(経営体あたり)

指定地域：神奈川県真鶴町



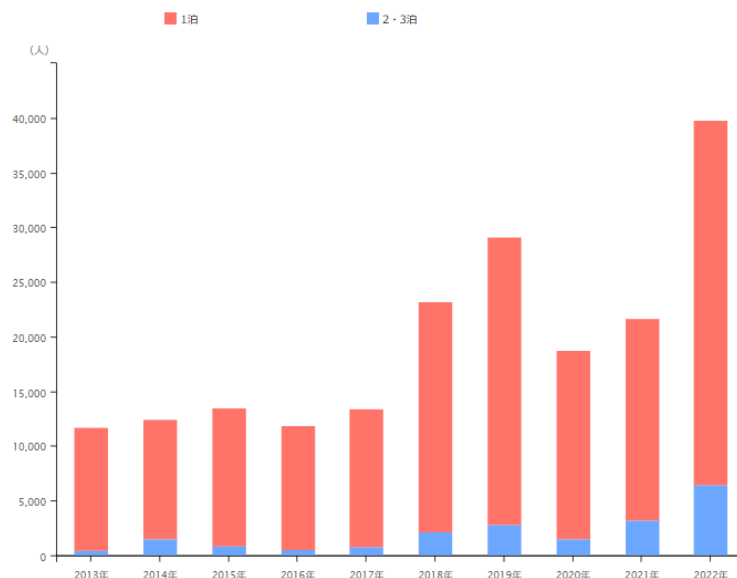
【出典】農林水産省「漁業センサス」再編加工

【分析】

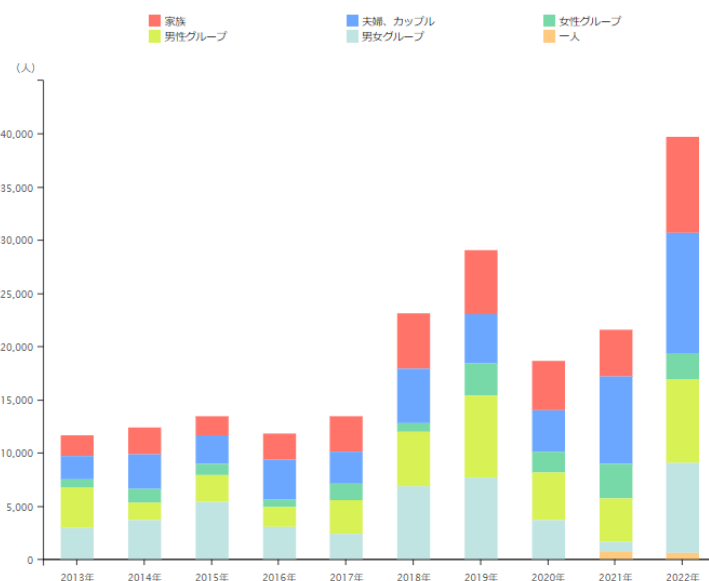
真鶴町の漁業者は、一軒あたりの売上が小さく、2018年には平均1,060万円程度。しかも、年々売上が減少しているようです。

【観光】

延べ宿泊者数(総数)の推移 宿泊日数別



延べ宿泊者数(総数)の推移 参加形態別



【出典】

観光予報プラットフォーム推進協議会「観光予報プラットフォーム」

【分析】

宿泊者数は増加傾向にあり、コロナ禍で減退したものの2022年には近年最多の39,820人を記録しました。2～3泊する人は少なく、ほとんどの人が1泊のみです。

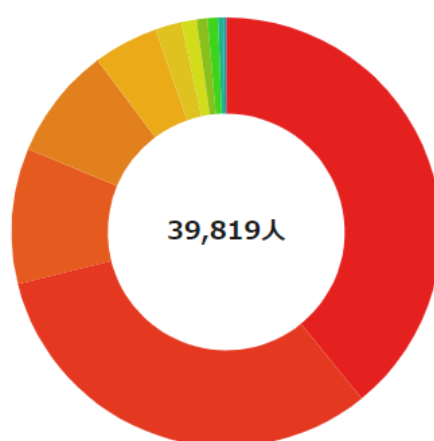
誰と来ているか？参加形態別に見ると、真鶴町を訪れる宿泊者は、「家族」、「夫婦、カップル」、「男女グループ」の割合が多いです。

居住都道府県別の延べ宿泊者数(日本人)の構成割合 2021年

居住都道府県別の延べ宿泊者数(日本人)の構成割合

神奈川県真鶴町

2022年



- 1位 東京都 15,588人 (39.15%)
- 2位 神奈川県 12,720人 (31.94%)
- 3位 埼玉県 4,080人 (10.25%)
- 4位 千葉県 3,360人 (8.44%)
- 5位 宮崎県 1,946人 (4.89%)
- 6位 山梨県 787人 (1.98%)
- 7位 群馬県 458人 (1.15%)
- 8位 長野県 324人 (0.81%)
- 9位 愛知県 313人 (0.79%)
- 10位 京都府 162人 (0.41%)
- その他 81人 (0.20%)

【出典】

国土交通省「FF-Data(訪日外国人流動データ)」

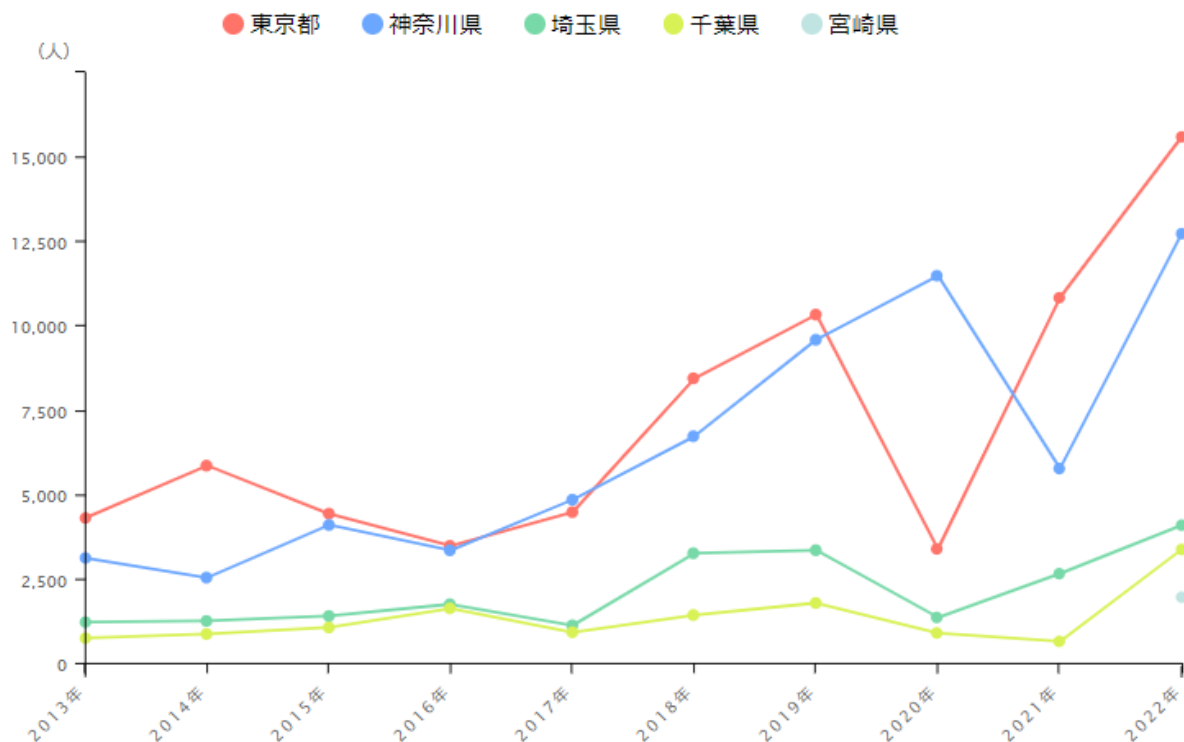
【分析】

国内のどこから観光に来ているのか？宿泊者で見ると、上位4位の1都3県で宿泊者の約9割を占めています。

居住都道府県別の延べ宿泊者数(日本人)の推移

居住都道府県別の延べ宿泊者数（日本人）の推移

神奈川県真鶴町



【出典】

観光予報プラットフォーム推進協議会「観光予報プラットフォーム」

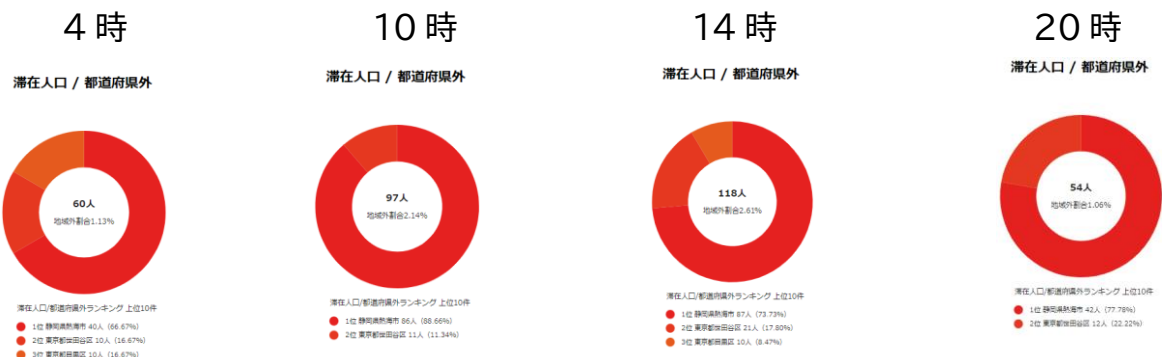
【分析】

2020年は緊急事態宣言が発令されていた頃であり、「県境を越えての移動」を自粛するように求められ、県内で旅行をする「マイクロツーリズム」が流行した時期なので、宿泊客は神奈川県民が一番多くなっています。

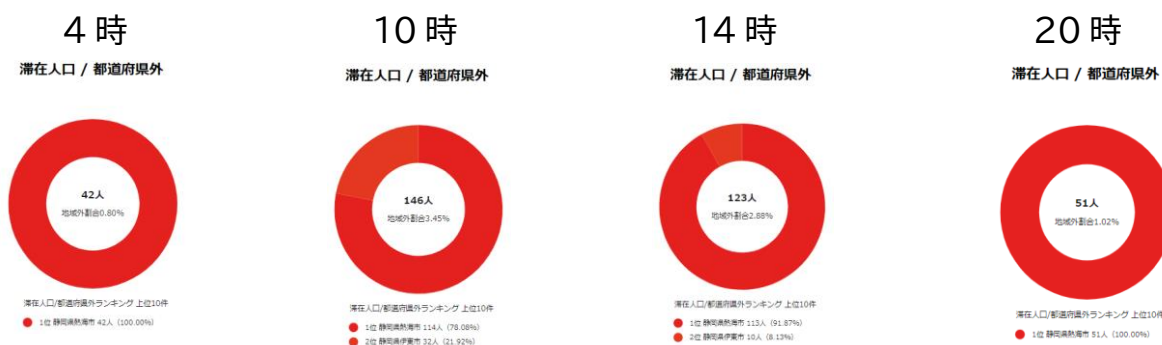
一方、2021年と2022年は5類に移行してはいないもののコロナ禍による規制がだいぶ緩くなってきた頃で、神奈川県民よりも東京都民のほうが多くなっています。2022年には、いずれの都県ともコロナ禍前を上回りました。

県外の滞在人口の地域別構成割合 2023年6月

【休日】



【平日】



【出典】

株式会社 NTTドコモ・株式会社ドコモ・インサイトマーケティング「モバイル空間統計®」

【分析】

上記は「モバイル空間統計」を使ったグラフです。これは DoCoMo 回線のケータイ電話を持っている人のうち、2023年6月に真鶴町に滞在していた人を GPS の位置情報から割り出し、契約者情報から住所地を調べたものです。ここから観光に役立つ情報がないか読み取ってみたいと思います。

休日を見ると、どの時間帯も県外者の中では1位が熱海市民で2位が世田谷区民となっています。1位の熱海市民については距離が近いことから単なる通過交通の可能性もありますが、休日4時は通過交通の割合は低く、大半が宿泊者だと考えられます。2位の世田谷区民については、時間による増減幅が小さいことが特徴です。ここから疑われるのは、いずれも観光目的の宿泊ではなく別荘保有者などの割合が一定程度あるのではないかと、ということです。ただし、別荘保有者が訪れることは、滞在時間が長くなるため観光消費額が増えることが期待できます。

平日を見ると、いずれも1位が熱海市民となっています。平日4時も休日4時と同じ40人台の熱海市民がいることから、熱海市に住民票を置く方のうち40人程度は実際には真鶴町を生活圏としている方なのかもしれません。平日日中の滞在者は、おそらく就業者が大きな割合を占めると考えられます。

特別な洞察を得ることはできませんでしたが、別荘族の方々の観光消費という点の一つの気付きとなりました。

【医療・福祉】

要介護(要支援)認定者数(実数)の推移

要介護（要支援）認定者数（実数）の推移

神奈川県真鶴町（真鶴町）
すべての分類



【出典】

厚生労働省「地域包括ケア『見える化』システム」

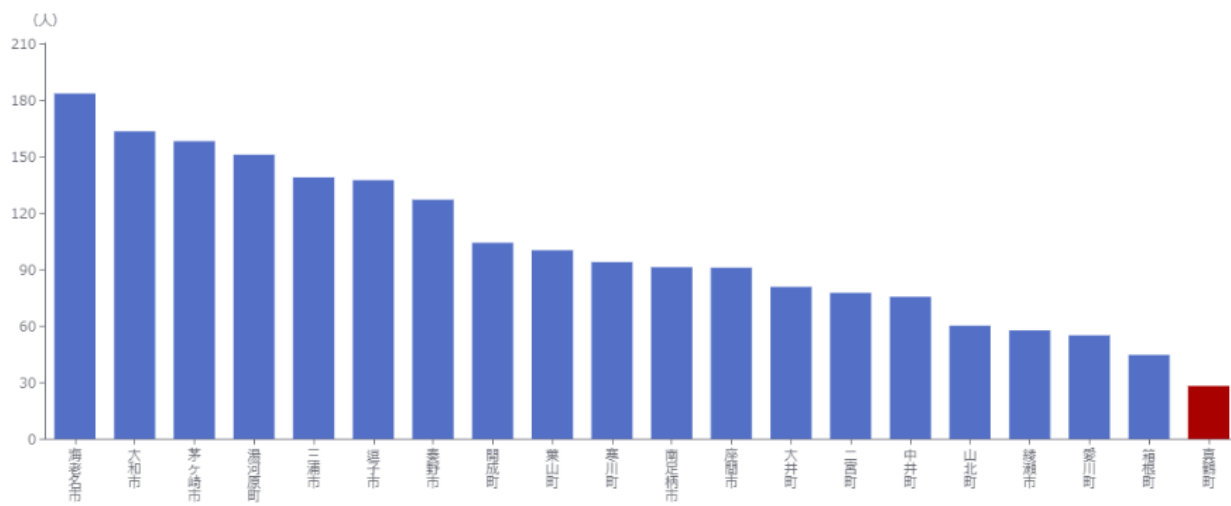
【分析】

要介護（要支援）認定者数が増えています。高齢者の増加によるものと見られます。

人口 10 万人あたり医師数・一般病床数(地域間比較)2020 年度

医師数 (人口10万人あたり)

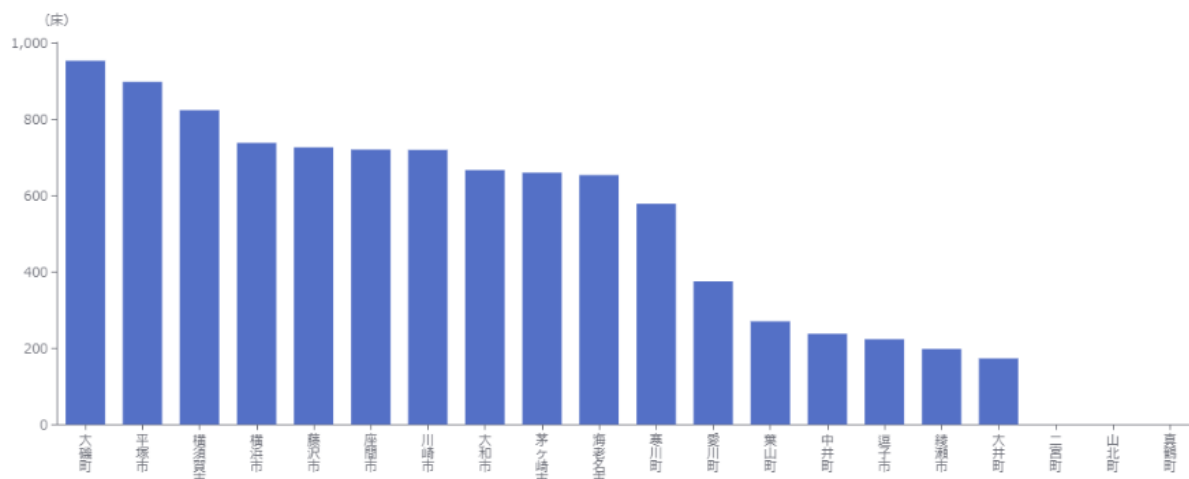
神奈川県真鶴町
2020年
すべての診療科



全体のこの辺りだけ表示しているという意味→

病床数 (人口10万人あたり)

神奈川県真鶴町
2020年
すべての大分類



全体のこの辺りだけ表示しているという意味→

【出典】

厚生労働省「医療施設静態調査」、「医師・歯科医師・薬剤師調査」(2016年まで)、「医師・歯科医師・薬剤師統計」(2018年から)、「衛生行政報告例」、「患者調査」、総務省「人口推計」、「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」

【分析】

医師数は県内最下位となりました。

病床数が0となっているのは、入院できる医療機関がないためです。真鶴町の医療は近隣の市町村（小田原市、熱海市）にある程度依存しています。

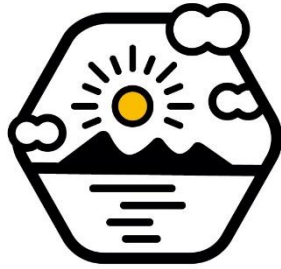
まとめ

私たち真鶴町職員は日々、真鶴町に関わる仕事をしています。ただし今回、RESAS という地域経済分析システムだけで見ても、多くの驚きや気付きがありました。いつも真鶴町に慣れ親しんでいるつもりが、知らない真鶴町の姿に触れる格好となりました。

世の中には他にも、RESAS では扱われていない国や県の統計もありますし、民間シンクタンク等が公表しているデータもあります。目で見て町民の声を聴くことでわかる真鶴町の姿と、データから浮かび上がってくる真鶴町の姿。その両方を重ね合わせながら立体的かつ俯瞰的に現状を把握し、的確な打ち手を講じていくことが、人口も財源も職員も減っていく時代の自治体経営にはますます求められるのではないかと。今回の真鶴データブック 2023 の制作を終えて、そのように考えています。

今後、町として保有する様々な情報についても、どんどんオープンデータ化し可視化していく方針です。

こうした共通の理解を土台に、町内外や官民といった垣根を越えて議論を重ね、公民連携型のまちづくりを進めていきたいと考えています。



幸せをつくる
真鶴時間

真鶴町役場 町長室

〒259-0202

神奈川県足柄下郡真鶴町岩 244 番地の 1

TEL 0465-68-1131 内線 314

FAX 0465-68-5119